

y a m e

八女市内遺跡群 7

福岡県八女市緒玉所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第111集

2016

八女市教育委員会

八女市文化財調査報告書 第111集

y a m e

八女市内遺跡群 7

福岡県八女市緒玉所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第111集

2016

八女市教育委員会

序

八女市の西側に位置する緒玉地区においては多くの遺跡や遺物の存在が知られており、現在でも多数地下に存在しているものと思われます。これらの保存と周知は本市においても取り組まなければならない重要な課題となっています。

昭和50年代後半から始まった八女南部地区圃場整備事業におきましても、事業開始前に事前の発掘調査が実施されています。その結果、これまで知られる事の少なかった古代の集落や墳墓が多数発見され、当該地区の歴史の奥深さを認識するに足る成果が見いだされています。

今回の報告は、平成2年に行われた発掘調査の内容について再検討を行い、より精度の高い情報を公表する事で2200年程前の先人の暮らしぶりを知って頂き、今現在においても地下に埋蔵している遺跡に対し、深いご理解と文化財愛護の思いを持って頂く事を目的としております。

この報告書が今回公表させて頂きました遺跡のみならず、市内に数多く点在する文化遺産を深く理解する一助となり、今まで以上の郷土愛の心を育むことに寄与出来るのであるならば幸甚の極みであります。

最後に、当該遺跡の発掘調査に格段のご理解を頂きました関係各位、及び、地元の皆様方には、並々ならぬご協力と応援を頂きました。

深く御礼を申し上げるとともに、今後の文化財行政につきまして、これまで以上のあたたかいご声援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年3月31日

八女市教育委員会

教育長 西島 民生

例 言

- 1 本書は、八女市緒玉字宿町所在遺跡における発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は八女市教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査で検出した遺構の名称・番号については発掘調査時に準じて付しているが、重複等の混乱も見られる事から、僅かに新番号を付したものもある。
- 4 本書に使用した現地測量図については、発掘調査当時の担当責任者を中心として参加者で分担して行っている。
出土遺物の実測図作成については旧岩戸山歴史資料館において一部を除き実施されている。
- 5 本書に使用した現地写真は、発掘調査当時の担当責任者が撮影している。出土遺物の撮影については旧岩戸山歴史資料館において本報告における整理担当者が撮影した。
- 6 本書使用の方位については、すべて磁北を基準としている。
- 7 本書の執筆、及び、編集については大塚が行った。この折、発掘調査時に出された発掘現場説明会資料を参考とした。
- 8 本書に関する調査記録、及び、出土遺物は旧岩戸山歴史資料館において保管・収蔵している。

本文目次

1 調査の経過

A 調査に至る経過

B 調査体制

2 遺跡の立地と歴史的環境

3 調査の内容

発掘調査の概要

宿町遺跡

1) 遺構と出土遺物

出土遺物観察表

図版 (PLATES)

插图目次

- 第 1 图 宿町遺跡周辺遺跡分布图 [1/25,000]
- 第 2 图 宿町遺跡位置图 [1/5,000]
- 第 3 图 宿町遺跡 遺構配置图 [1/400]
- 第 4 图 SB-01・02 実測图 [1/80]
- 第 5 图 SB-03 実測图 [1/80]
- 第 6 图 SB-04 実測图 [1/80]
- 第 7 图 SB-05 実測图 [1/80]
- 第 8 图 SB-06 実測图 [1/80]
- 第 9 图 SB-07 実測图 [1/80]
- 第 10 图 SB-08 実測图 [1/80]
- 第 11 图 SB-09 実測图 [1/80]
- 第 12 图 SK-03 実測图 [1/40]
- 第 13 图 SK-04 実測图 [1/40]
- 第 14 图 SK-05 実測图 [1/40]
- 第 15 图 SK-06 実測图 [1/40]
- 第 16 图 SK-07 実測图 [1/40]
- 第 17 图 SK-10 実測图 [1/40]
- 第 18 图 SK-11 実測图 [1/40]
- 第 19 图 SK-12・13・14 実測图 [1/40]
- 第 20 图 SK-15・16 実測图 [1/40]
- 第 21 图 SK-17 実測图 [1/40]
- 第 22 图 SK-18 実測图 [1/40]
- 第 23 图 SK-19 実測图 [1/40]
- 第 24 图 SK-20・21 実測图 [1/40]
- 第 25 图 SK-22 実測图 [1/40]
- 第 26 图 SK-23 実測图 [1/40]
- 第 27 图 SK-24 実測图 [1/40]
- 第 28 图 SK-25 実測图 [1/40]
- 第 29 图 SK-26 実測图 [1/40]
- 第 30 图 SK-28 実測图 [1/40]
- 第 31 图 SK-29・30 実測图 [1/40]
- 第 32 图 SK-31 実測图 [1/40]
- 第 33 图 SK-32 実測图 [1/40]
- 第 34 图 SK-33・34 実測图 [1/40]
- 第 35 图 SK-35 実測图 [1/40]
- 第 36 图 SK-36・37 実測图 [1/40]

- 第 37 图 SK-38 实测图 [1/40]
 第 38 图 SK-39 实测图 [1/40]
 第 39 图 SK-40 实测图 [1/40]
 第 40 图 SK-41 实测图 [1/40]
 第 41 图 SK-42 实测图 [1/40]
 第 42 图 SK-43·44 实测图 [1/40]
 第 43 图 SK-45 实测图 [1/40]
 第 44 图 SK-46·47 实测图 [1/40]
 第 45 图 SK-48 实测图 [1/40]
 第 46 图 SK-49 实测图 [1/40]
 第 47 图 SK-50 实测图 [1/40]
 第 48 图 SK-51 实测图 [1/40]
 第 49 图 SK-53 实测图 [1/40]
 第 50 图 SK-56 实测图 [1/40]
 第 51 图 SK-57·58·59 实测图 [1/40]
 第 52 图 SK-60 实测图 [1/40]
 第 53 图 SD-01 (環壕) 实测图 [1/300]

出土遺物

- 第 54 图 SB-01、02、03、04 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 55 图 SB-07 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 56 图 SB-07、09 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 57 图 SK-01、03、07 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 58 图 SK-08、11、12、13、15 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 59 图 SK-16、17、20、22、23、24 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 60 图 SK-25、27、28、29、30、31 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 61 图 SK-32、34、35、36、37 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 62 图 SK-37、39、40 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 63 图 SK-41、42、43、44、47 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 64 图 SK-47、48、49、53 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 65 图 SK-53、54、55、57、58 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 66 图 SK-59、60、SD-01 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 67 图 SD-01 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 68 图 SD-01 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 69 图 SD-01 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 70 图 SD-01 出土遺物 实测图 [1/4]
 第 71 图 SD-01 出土遺物 实测图 [1/4]

表 目 次

第 1 表 出土遺物觀察表

図 版 目 次

PL 1～PL 4 現地遺構写真

PL 5～PL 9 出土遺物写真

1 調査の経過

A 調査に至る経過

昭和57年度を初年度として八女南部地区において実施された県営圃場整備事業は、一級河川である矢部川から山ノ井川までの地域約209haを整備するために計画された事業である。初年度以降においては順次北方地域に向け、毎年20ha程度の事業が実施された。

平成2年には緒玉地区が事業地となり、八女市教育委員会が現地における遺跡の分布状況を調査したところ、一部に埋蔵文化財の包蔵が推測された。これを受け、八女市教育委員会と八女南部土地改良区が協議を行い、地下に埋蔵される遺跡の広がり調べのため試掘調査を実施した。その結果、弥生時代を中心とした竪穴住居や多数の土壇や柱穴跡、溝状遺構が発見され、広範囲に及ぶ遺跡の存在が推測された。

試掘調査の結果を踏まえ、八女市教育委員会では国庫補助事業として発掘調査を実施する事となり、宿町遺跡においては平成2年6月2日より発掘調査（本調査）を開始した。

以後、後年において圃場整備事業実施予定地となった地区においては事業前年度に試掘調査を実施する事を基本とし、事業地内の埋蔵文化財の在り方について把握を行いつつ、関係各機関と協議を行いながら連携を重ね、圃場整備により削平・掘削が実施される部分を中心に発掘調査を実施している。

整備事業において削平を免れた地域については、遺跡保護の観点から現状保存の策が採られている。

B 調査体制

【平成2年度】（現地調査時）

〔調査主体〕 八女市教育委員会

教育長	坂田 不二夫
社会教育課長	小野 勝輝
同 課長補佐	大月 重信
同 係員	梅野 満、井手 勇一、平嶋 芳子、赤崎 敏男
同 嘱託	鹿田 昌宏（調査担当）

【平成27年度】（本報告刊行時）

〔調査主体〕 八女市教育委員会

教育長	西島 民生
教育部長	室園 哲也
文化課長	井上 秀樹
同 課長補佐	月足 稔

同 参事補佐	北島 一雄
同 文化財保護係長	中川 寿賀子（総括・別冊報告担当）
同 係員	永田 寧（別冊報告担当）
同 係員	檀 佳克（別冊報告担当）
同 係員	渡部 真弓
同 歴史文化交流館	
	係長 大塚 恵治（本報告担当）

以下の方々においては整理期間中多大な御指導・御協力を頂きました。記して感謝申し上げます。
（順不同、敬称略、当時）

福岡県教育委員会 文化財保護課 吉田 東明、坂元雄紀

2 遺跡の立地と歴史的環境

【地理的環境】

八女市は平成22年2月1日に旧八女郡に所在していた立花町、黒木町、星野村、矢部村の2町2村と合併し、福岡県下で2番目に広い行政区域をもった新たな「八女市」としてスタートする事となった。

現在、西を筑後市、東を大分県日田市、南を熊本県山鹿市と接する広大な県境の自治体となり、多様な生産活動が見られる希有な行政体となっている。東の山間部では杉や檜を中心とした林業が盛んであり、その地形を巧みに利用した文化的景観としての棚田も多数見られる。また、中山間部においては地域の気象条件の恩恵を受け、高級茶葉である玉露や良質な巨峰などの生産が盛んに行われている。平野部では福岡県産の母の主力である「あまおう」や梨、電照菊などを生産している。

これらの生産活動を可能にしている立地は、耳縄山地と福岡・熊本両県を区する筑肥山地により「コ」の字状に囲まれ、大分県との境にそびえる釈迦岳山地に源を発し有明海に向け西流する一級河川である矢部川が形成したものである。流域面積647㎡を誇る福岡県下第3の大河であり、古来より水上運搬に供され現市域で行われた産業すべての要であった。

しかしながら、時代の流れとともに八女市内で生産される文物の大半は陸上輸送に徐々にシフトし、今では水上輸送手段はほぼ皆無となっている。

現在の交通事情を概観すると、八女市内には大分県まで延びる国道442号線が東西に走り、西部地区には九州の大動脈である国道3号線や九州縦貫自動車道が南北を貫いており、八女西部地区はまさに九州のクロスロード的な性格を持っている。

【歴史的環境】

宿町遺跡は福岡県八女市緒玉に所在している。

当該地周辺はかねてから弥生時代・古墳時代を中心とした埋蔵文化財が数多く存在している地区として知られ、大規模な圃場整備事業の実施に伴い弥生時代後期～古墳時代前期に属する大規模な集落や墳墓群の発見があり、当地区における埋蔵文化財の概要が明らかになってきた。

以下、八女市の西部地域における概要を記し、当遺跡を理解する一助としたい。

（概要）

八女市の西部地域における遺跡の初現期は縄文時代前期まで遡る事が出来、国武遺跡群や平田遺跡群等では押型土器が数多く出土している。同後期に入ると、南西部のアモメ遺跡において小規模な円形の竪穴住居や、少数ながら墳墓が見られるようになり、移動狩猟採集生活から定住化の兆しが見られるようになる。

弥生時代に入ると、立野・大坪遺跡や亀ノ甲遺跡、宿町遺跡等の前期後半の環濠遺跡が出現する。立野・大坪遺跡や宿町遺跡は直径40m～100m前後の貯蔵穴専用環濠と思われるのに対し、亀ノ甲遺跡の環濠は推定直径200mを超える大規模なものであり、全容は捉えられていないが環濠集落的な要素を持つ遺跡である。市内では未だ当該期にかかる本格的な稲作関連遺跡は発見されていないが、稲作と環濠遺跡はセット関係になる事が多く、これら遺跡の出現期には既に稲作が導入、または、定着していたものと考えられる。中期に入ると、これまで見られた様相とは異なった状況が展開する。中期前半から中頃にかけては竪穴住居が散発的にしか存在しないようになり、環濠のように大規模な土木工事を伴う遺構は全く確認出来ないようになる。ところが中期後半頃になると、六反田遺跡のように大規模な集落域と墳墓域がセッ



- | | | | |
|--------------|----------------|-------------|------------|
| 1. 宿町遺跡 | 6. 宮ノ后遺跡 | 11. 野田遺跡 | 16. 川犬古墳群 |
| 2. 井手口遺跡 | 7. ヒヤケ遺跡 | 12. 二反田遺跡 | 17. 西山ノ上遺跡 |
| 3. 中里遺跡 3 地点 | 8. 中里遺跡 1・2 地点 | 13. 立野・大坪遺跡 | 18. 亀ノ甲遺跡 |
| 4. 袴田遺跡 | 9. 深田遺跡 | 14. 樋の口遺跡 | 19. アモメ遺跡 |
| 5. 新庄・六反田遺跡 | 10. 京田遺跡 | 15. 川原遺跡 | 20. 岩戸山古墳 |
| | | | 21. 乗場古墳 |

第1図 宿町遺跡周辺遺跡分布図 [1/25,000]



第2図 宿町遺跡位置図 [1/5,000]

トになって出現するなど、再び大規模な土木工事を伴うべき大集落形成の萌芽が見られるようになる。また、前述した立野・大坪遺跡などから鉄器が出土するようになるなど、その普及と前後し、変化の著しい時代様相の到来が看取出来る。後期に入ると、各地で大規模な集落が形成されるようになる。室岡地区に所在する野口遺跡や道添遺跡、室岡工業団地内遺跡では鉄器や砥石が出土している。矢部川に面した南部地区では現在のところ大規模集落は発見されていないが、アモメ遺跡では非常に密集度の高い貯蔵穴群が発見されており、近くには墳墓群も存在することから、近接した区域で大規模な集落が存在するものと思われる。また、同地区内に所在する茶ノ木ノ本遺跡の喪棺墓群からは方格規矩鏡、深樋式銅剣、鉄戈が出土しており、これらの事象は在地有力者の台頭と共に、大規模集落同士の統合が進んでいる事を連想させる。

これと時をほぼ同じくして室岡台地上に所在する亀ノ甲・山ノ上周辺においても土地利用が再開し、地形を人為的に開削し前代とは比較にならない程の大環濠集落を形成する。西山ノ上遺跡や国道442号線バイパス建設関係の遺跡群がこれに該当し、特に前者においては原始鍛冶の痕跡とともに多量の鉄片、大陸由来の鑄造鉄斧片などの当時最先端の鉄素材が多量に出土するなど、一気に弥生時代における全盛期を迎える。しかしながら、西山ノ上遺跡が見せるように後期後半～末頃にかけて鉄素材を投棄したり、居住域を大幅に縮小する傾向が見られる。原因は定かでないが、瀬戸内地区で多く見られる高地性集落の発生時期と重なるところもあり、注意すべき点と思われる。

古墳時代に入ると、地域的な隔たりはあるものの、北部丘陵上（以下、八女丘陵）では4世紀前半頃から5世紀前半にかけて方形周溝墓や小円墳が造られるようになる。辻の西遺跡（1・2次調査）や立山山古墳群がこれに挙げられ、比較的小さな墓域の中で造墓活動を行っている事がわかる。5世紀前半になると八女丘陵上に大規模な古墳が次々に築造される。所謂、筑紫君一族が築いた八女古墳群であり、その初現は広川町所在の石人山古墳（108m）である。内部主体たる初期横穴式石室には直弧文を浮き彫りした家型石棺が納められており、最古級の装飾古墳としても知られる。5世紀後半代になると八女古墳群から大型前方後円墳は姿を消す。しかし、これを補完するように瑞王寺古墳（直径26m 円墳）、欠塚古墳（墳丘長45m 前方後円墳）、本6号墳（直径41m 円墳）、釘崎2号古墳（墳丘長約47m 前方後円墳）、丸山古墳（墳丘長55m 前方後円墳）等の古墳が次々に築造される。しかし、50m前後の中規模から逸脱しない点に、首長墓系列の一時的な不在を読み取る事が出来る。6世紀前半～中頃になると、筑紫君全盛期を築いた磐井が築造した岩戸山古墳（墳丘長約135m 前方後円墳）が出現する。日本書紀等にある磐井の乱後は、それまで単一的に連なっていた首長墓系譜が岩戸山以後は乗場古墳（墳丘長約70m 前方後円墳）、善蔵塚古墳（墳丘長約90m 前方後円墳）、鶴見山古墳（墳丘長87.5m 前方後円墳）など、複数の大型前方後円墳が出現し、首長系列の複数化を暗示している。6世紀後半代になると直径10m前後の小円墳が爆発的に増加すると共に、後半～末頃には前方後円墳は完全に姿を消し、童男山古墳（推定直径48m 円墳）などの大型円墳が出現する。しかし、7世紀初頭以後、これらの古墳に後続する大型古墳は全く見当たらず、歩調を合わせるかのように後期群集墳も姿を急速に消してゆく。

これらの現象を最後として、八女古墳群は終焉を迎える事となる。

3 調査の内容

発掘調査の概要

今回報告を行う宿町遺跡は八女南部第2圃場整備事業に伴う事前発掘調査により発見された遺跡で、基本的には当該地における小字名がその名の由来となっている。

宿町遺跡は緒玉集落に所在する緒玉天満宮から約400m南側に位置している。遺跡検出の段階で多数の竪穴住居や柱穴跡が存在している事が判明し、集落主体部の中央部付近に位置している事が容易に推測出来た。

以下においては、当該遺跡における調査結果について報告を行う。

宿町遺跡

遺跡の概要

弥生時代前期～後期までの遺構が検出されているが、中心となるものは弥生時代前期の集落遺構群である。特に注目される遺構はSD-01とナンバリングされた環濠遺構であり、当該地方の弥生文化の浸透と稲作文化の流入過程を示す物証として重要な発見であった。

以下、各遺構・出土遺物の詳細について記述する。

1) 遺構と出土遺物

竪穴住居 (SB)

SB-01 〈第4・5・4図〉

調査区の東側において検出した平面プランが若干楕円形を呈する円形の竪穴住居である。楕円の長軸方位をN-60°-Wに取り、規模は長軸長7.1m、短軸長6.1m、深さ0.2mを測る。

現状において主柱穴と考えられるピットはP1～P6までの6穴と思われるが、柱穴列の北西側にあたるP1とP6間に大きな空間が見られる。芯々で2.4mあり、やや距離をもっている。P1の西側にS2(扁平上の石材)があるが、本石材は主柱の礎板であった可能性もあり、その場合のS2とP6の柱間は約2.0mとなる。いずれにしても、本竪穴住居の柱間は約1.4m前後が主流の中においては若干広めとなっており、S2～P6周辺に住居入り口が存在していた可能性も考えられる。

出土遺物として甕、壺、鉢等がある。

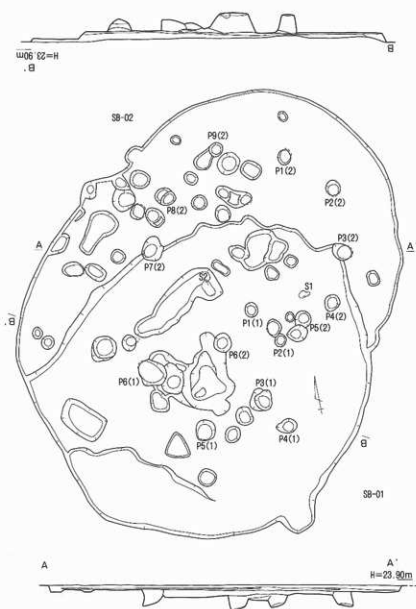
SB-02 〈第4・5・4図〉

調査区の東側において検出した平面プランが若干楕円形を呈するものと思われる円形の竪穴住居である。住居の大半をSB-01に切られている。楕円の長軸方位をN-50°-Eに取り、規模は長軸長7.0m+α、短軸長6.1m+α、深さ0.08mを測る。

主柱穴と考えられるピットはP1～P9までの9穴と思われるが、柱穴列の北西側にあたるP6とP



第 3 図 宿町遺跡 遺構配置図 [1/400]



第 4 図 SB-01・02 実測図 [1/80]

また、住居床面には自然石の丸礫を利用した扁平な石材が多数見られ、5～6個体の石材で群を成している。これら石材群は配置状況からA群～C群に分類が可能であり、いずれの群も石材の分布状況が馬蹄形を成す事で一致している。この同一性は住居内部において実施された人的作業の共通性を示唆しており、当該住居構成員が3つのグループに分かれ、ある同一目的を持った作業を各群において実施していた事を示すものと考えられ、住居内における作業単位及び作業に関わる行動エリアの類推が可能な貴重な例として注目出来る。

P8及びP9に隣接するD1・D2の2基の土壇は、平面形やフラスコ状を成す断面の形状から屋内設置型の貯蔵穴と考えられるが、配置場所や両者の接近性から出入り口等の構造体の柱穴である可能性も排除出来ない。

出土遺物として裏、鉢等がある。

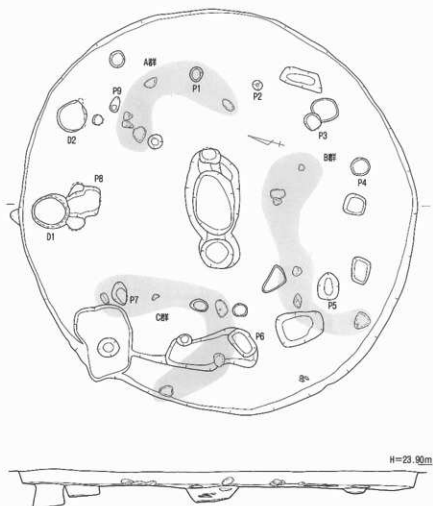
7間に柱間2.4mの大きな空間が見られる。本竈穴住居の柱間は1.2m～1.4m前後が主流である中においては2倍程度の幅を設けており、住居入り口を意識した極端な空間構成を意図しているように見える。切り合い関係から見ればSB-01が後出するが、出土土器に大きな時期差はなく、SB-01の造営者はSB-02の存続期間に設けられていた出入り口のポイントを踏襲する形を採用した可能性も考えられる。

出土遺物として壺等破片がある。

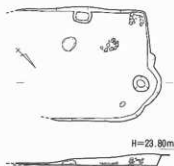
SB-03 <第5・54図>

調査区の東側、SB-01・02に隣接する状況において検出した平面プランが円形を呈する大型の竈穴住居である。規模は直径8.2m～8.8m、深さ0.3mを測る。

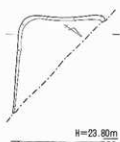
主柱穴と考えられるピットはP1～P9までの9穴と思われる。住居中央部に位置する地炉の東西には直径60cm～80cm程の小穴が穿たれており、形態的な特徴から松菊里タイプの竈穴住居と思われる。



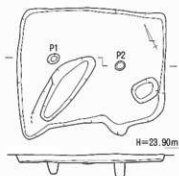
第 5 図 SB-03 実測図 [1/80]



第 6 図 SB-04
実測図 [1/80]



第 7 図 SB-05
実測図 [1/80]

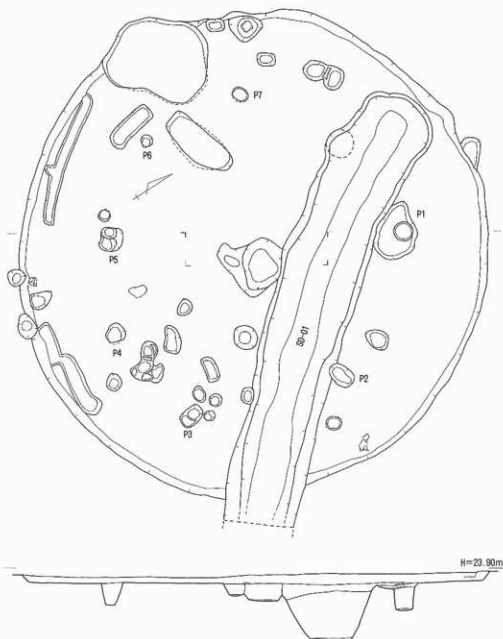


第 8 図 SB-06
実測図 [1/80]

SB-04 〈第6・54図〉

調査区の東端において検出した平面プランが長方形を呈すると思われる竪穴住居である。長軸方位を $N-42^{\circ}-W$ に取り、規模は長軸長 $2.7m + a$ 、短軸長 $2.4m$ 、深さ $0.15m$ を測る。住居南東側は削平により消失している。

主柱穴と考えられるにピットは確認出来ず、無柱の建物であった可能性もある。住居中央部西側に直径



第 9 図 SB-07 実測図 [1/80]

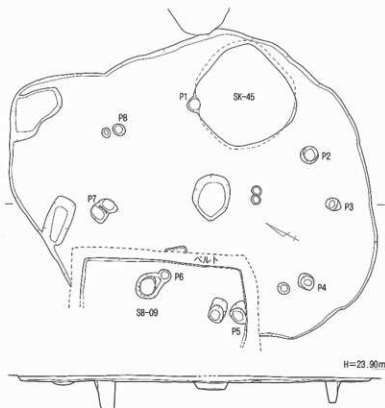
3.5cm 程の大型台石（すり石？）が遺存していた。北西側で検出した土器群は流入品と考えられる。西辺中央に長方形の小ピットが位置しているが、屋内土壌か否か現段階では不明と言わざるを得ない。

出土遺物として瓦破片等がある。

SB-05 〈第7図〉

調査区の北東端において検出した平面プランが長方形を呈すると思われる竪穴（建物？）である。本体部分の大半は調査区外に延びており、詳細を把握できる状況とはなっていない。長軸方位を $N-60^{\circ}-E$ に取り、規模は長軸長 $1.9m + \alpha$ 、短軸長 $1.8m + \alpha$ 、深さ $0.1m$ を測る。

全体像が把握出来ない状況であり、本文中での分類としては発掘当時の調査者の認識に依ったが、北西端部の形状から長方形プランを有する貯蔵穴の可能性も強く感じられる。



第10図 SB-08 実測図 [1/80]

10.0m ~ 10.2m、深さ 0.2m を測る。

現状で主柱穴と認識出来るピットは P1 ~ P7 であるが、本来は 8 本柱の建物であったと思われる。SD-01 に切られているため P2 ~ P3 間、及び、P7 ~ P1 間の立柱状況が不明瞭となっているが、P7 と P1 の中間地点程の SD-01 のアウトラインの一部に半円形状に膨らみをもつところがあり、ここが本来の P8 に該当するものと思われる。P3・P4 周辺には主柱穴と同程度の比較的深いピット群が見られ、存続期間中に複数回の建て替えがあったものと考えられる。

P1 ~ P3 間は、他の柱間隔が平均 2.3m であるのに対し 3.3m の間隔を有するところから、この周辺に出入り口に関わる施設が存在していた可能性が考えられる。南西側の壁面手前には壁溝と思われる細長い土壇状の遺構が見られる。

柱間の在り方や直径 1.0m を超える規模などを考慮すると、一般住居とは異なる集会所的な機能を期待された建物として機能していたと考えるべきだと思われる。

出土遺物として甕、壺、鉢等に加え、ミニチュア土器、土製紡錘車がある。

SB-08 <第10図>

調査区中央部の北端において検出した平面プランが不整形な隅丸方形を呈する竪穴住居である。住居の一部を SB-09 に切られ、SK-45 を切っている。楕円の長軸方位を N-8° - W に取り、規模は長軸長 8.4m、短軸長 5.2m + α、深さ 0.1m を測る。

主柱穴と考えられるピットは P1 ~ P8 であり、8 本柱の建物であったと思われる。P5 ~ P8 には近接したピット群が認められ、主柱穴と同等以上の規模と深さを有している事から、住居存続期間中に複数回の建て替えがあったものと考えられる。P1 ~ P2 間は、他の柱間隔が平均 1.7m であるのに対し 2.6m

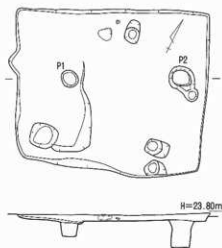
SB-06 <第8図>

調査区の中央部において検出した平面プランがやや不整形な長方形を呈すると思われる竪穴住居である。長軸方位を N-64° - W に取り、規模は長軸長 3.1m、短軸長 2.5m、深さ 0.2m を測る。

主柱穴と考えられるピットは P1・P2 があり、2 本柱の建物であったと思われる。しかしながら、内部には屋内土壇や地炉等の付帯施設の検出がなかった事から、竪穴建物としての認識も必要かも知れない。

SB-07 <第9・55・56図>

調査区中央部の北端において検出した平面プランが円形を呈する大型の竪穴住居である。規模は直径



第11図 SB-09 実測図
[1/80]

の間隔を有するところから、主柱周辺に出入り口に関わる施設が存在していた可能性が考えられる。

SB-09 〈第11・56図〉

調査区中央部の北端において検出した平面プランが長方形を呈する竪穴住居である。長軸方位を $N-62^{\circ}-E$ に取り、規模は長軸長 4.0m、短軸長 3.5m、深さ 0.12m を測る。

主柱穴と考えられるピットは P1 と P2 であり、2 本柱の建物であったと思われる。北辺に 30cm × 30cm 程の扁平石材と 20cm × 40cm 程の小ピットが検出されている。配置的には屋内土壌が所在する位置ではあるが、関係性は不明。

竪穴住居の規模に対し深く規模の大きな柱穴となっている印象が感じられ、かなり堅固な主柱が求められていた可能性も考えられる。出土遺物として甕、鉢等に加え、土製勾玉がある。

土壌 (SK)

SK-01 〈第57図〉

調査区北東端で検出した土壌である。本体部分の大半が調査区外に延びているため、詳細については不明。規模は南北長 0.6m + α 、東西長 1.1m、深さ 0.8m を測る。長方形気味な平面プラン及び墳内の深さから貯蔵穴の可能性が高い。

SK-02

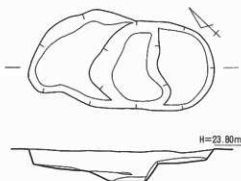
調査区東側で検出した平面プランが長方形を呈しているものと思われる土壌である。SB-02 に切られる。長軸方位を $N-70^{\circ}-W$ に取る。規模は長軸長 0.7m + α 、短軸長 0.85m、深さ 0.5m を測る。

SK-03 〈第12・57図〉

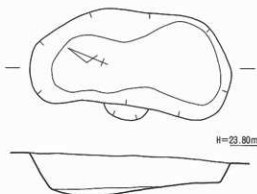
調査区東側で検出した平面プランが不整楕円形の土壌である。長軸方位を $N-40^{\circ}-W$ に取る。規模は長軸長 2.0m、短軸長 1.0m、深さ 0.1m ~ 0.35m を測る。

SK-04 〈第13図〉

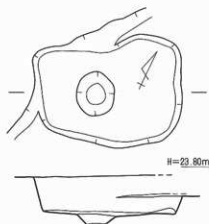
調査区東側で検出した平面プランが不整楕円形の土壌である。長軸方位を $N-20^{\circ}-W$ に取る。規模は長軸長 2.15m、短軸長 1.1m、深さ 0.45m を測る。



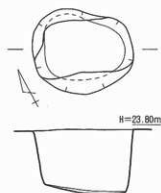
第12図 SK-03 実測図
[1/40]



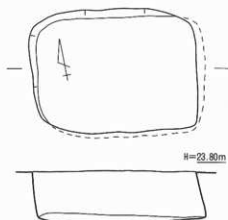
第13図 SK-04 実測図
[1/40]



第14図 SK-05
実測図 [1/40]



第15図 SK-06
実測図 [1/40]



第16図 SK-07 実測図
[1/40]

SK-05 <第14図>

調査区東側で検出した平面プランが隅丸長方形の土壌である。長軸方位を $N-55^{\circ}-E$ に取る。規模は長軸長 1.6m、短軸長 1.15m、深さ 0.4m ~ 0.5m を測る。

SB-03 を切っており、規模や形状から貯蔵穴の可能性もある。

SK-06 <第15図>

調査区東側で検出した平面プランが不整形の土壌である。元々の形状は隅丸長方形であった可能性が高い。長軸方位を $N-65^{\circ}-W$ に取る。規模は長軸長 1.1m、短軸長 0.9m、深さ 0.7m を測る。

壁面が垂直気味に立ち上がり、本来の深さが 1m を超える事が予測出来るなどの点から貯蔵穴として機能していたものと考えたい。

SK-07 <第16・57図>

調査区東側で検出した平面プランが長方形の土壌である。長軸方位を $N-78^{\circ}-W$ に取る。規模は長軸長 1.75m、短軸長 1.3m、深さ 0.55m を測る。

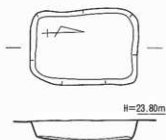
平面形状や壁面の立ち上がり、底面フラット等の状況から貯蔵穴として機能していたものと考えられる。このタイプの貯蔵穴は八女市立野所在の立野・大坪遺跡に多く見られる。

SK-08 <第58図>

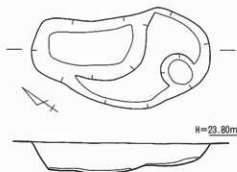
調査区東側、SD-01 の内側において検出した平面プランが方形を呈すると思われる土壌である。本体部分の大半を SD-01 に切られているため、詳細は不明であるが、平面形状や壁面の状況から長方形タイプの貯蔵穴であった可能性も考えられる。規模は南北長 $1.3m + \alpha$ 、東西長 $2.3m + \alpha$ 、深さ 0.15m ~ 0.4m を測る。

SK-09

調査区東側で検出した平面プランが不整形長方形を呈すると思われる土壌である。本体の大半を SD-01 に切られており、詳細は不明である。長軸方位を $N-20^{\circ}-E$ に取る。規模は推定長軸長 2.4m、推定短軸長 1.7m を測る。



第17図 SK-10
実測図 [1/40]



第18図 SK-11 実測図
[1/40]

SK-10 <第17図>

調査区中央部で検出した平面プランが長方形を呈すると思われる土壌である。長軸方位を南北に取る。規模は長軸長 1.15m、短軸長 0.8m、深さ 0.2m を測る。

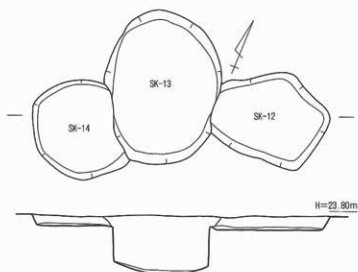
SK-07 と比較するとやや小型ではあるが、平面形状や壁面の立ち上がり、底面フラット等の状況から貯蔵穴として機能していたものと考えられる。

SK-11 <第18・58図>

調査区中央東側で検出した平面プランが不整楕円形を呈すると思われる土壌である。長軸方位を N-38°-W に取る。規模は長軸長 1.9m、短軸長 1.0m、深さ 0.25m~0.4m を測る。段掘り構造になっているが、断面形状等を考慮すると土壌墓や柱穴の掘り方ではないものと思われる。性格不明。

SK-12 <第19・58図>

調査区中央東側で検出した平面プランが長方形を呈すると思われる土壌である。規模は南北長 1.2m、東西長 1.0m、深さ 0.15m を測る。後述する SK-13 との相関関係を考慮すると貯蔵穴の可能性もあるが、詳細は不明。



SK-13 <第19・58図>

調査区中央東側で検出した平面プランが楕円形を呈すると思われる土壌である。SK-12・SK-14 を切っている。長軸方位を N-25°-W に取る。規模は長軸長 1.65m、短軸長 1.25m、深さ 0.6m を測る。垂直気味に立ち上がる壁面形状や、フラットを基調としながらも底面中央部が若干窪む特徴から貯蔵穴と考えられる。

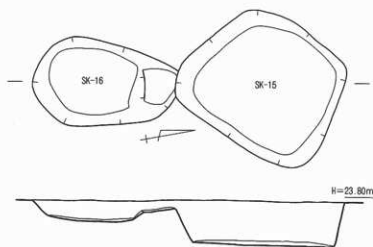
第19図 SK-12・13・14 実測図 [1/40]

本土壤を含む SK-12~SK-14 までの位置関係から、SK-12・SK-14 が並行関係を持って同

時存在し、目的が異なっていた可能性を残しながらも両土壇と同様の機能を付加されたSK-13が新規に营造されたものと思われる。

SK-14 〈第19図〉

調査区中央東側で検出した平面プランが円形を呈すると思われる土壇である。規模は南北長1.1m、東西長0.9m + α 、深さ0.1mを測る。前述したSK-12・13との相関関係を考慮すると貯蔵穴の可能性も考えられるが、詳細は不明。



第20図 SK-15・16 実測図 [1/40]

SK-15 〈第20・58図〉

調査区中央部で検出した平面プランがやや台形気味の長方形を呈する土壇である。長軸方位をN-42°-Eに取る。規模は長軸長1.7m、短軸長1.4m、深さ0.45mを測る。

やや小型ではあるが、平面形状や壁面の立ち上がり、底面フラット等の状況から貯蔵穴として機能していたものと考えられる。

SK-16 〈第20・59図〉

調査区中央部で検出した平面プランが楕円形を呈する土壇である。SK-15に切られる。長軸方位をN-14°-Eに取る。規模は長軸長1.5m、短軸長0.9m、深さ0.1m~0.2mを測る。

段掘り構造になっているが、用途等については不明。

SK-17 〈第21・59図〉

調査区中央部で検出した平面プランがやや台形気味の不整形を呈する土壇である。長軸方位をN-42°-Wに取る。規模は長軸長1.06m、短軸長0.94m、深さ0.25mを測る。

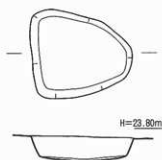
SK-18 〈第22図〉

調査区中央部で検出した平面プランが細長い長円形を呈する土壇である。長軸方位をN-70°-Eに取る。規模は長軸長2.55m、短軸長1.0m、深さ0.4mを測る。

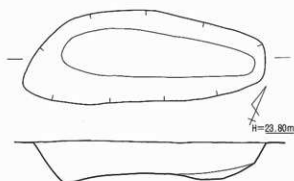
土壇の底面両端が一部窪んでおり、貯蔵穴や他の土壇との差異が見られる。これを踏まえた上で断面観察及び土壇の平面形状を考慮した結果、土壇墓の可能性を考えたい。

SK-19 〈第23図〉

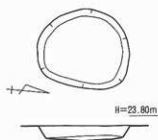
SD-001の内側において検出した平面プランが楕円形を呈する土壇である。長軸方位を南北に取り、規模は南北長1.0m、東西長0.8m、深さ0.15mを測る。



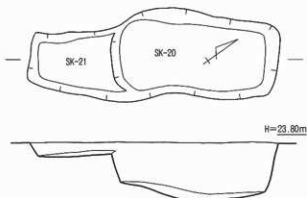
第21図 SK-17
実測図 [1/40]



第22図 SK-18 実測図 [1/40]



第23図 SK-19
実測図 [1/40]



第24図 SK-20・21 実測図 [1/40]

SK-20 <第24・59図>

SD-01の内側において検出した平面プランが長方形を呈すると思われる土壌である。長軸方位をN-40°-Eに取る。規模は長軸長1.75m、短軸長0.9m、深さ0.6mを測る。

平面形状や壁面の立ち上がり状況から、貯蔵穴として機能していたものと考えられる。

なお、調査時に別遺構として捉えられていたSK-21については、SK-20との接続関係及び平面形状の類似性を考慮するとSK-20と同一遺構としか考えられず、本来の在り方としてはSK-21に該当する部分が昇降部、SK-20が貯蔵穴本体部分となる。

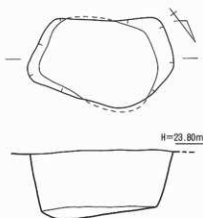
SK-21 <第24図>

SD-01の内側において検出した平面プランが長方形を呈する土壌である。詳細についてはSK-20部分で述べている。長軸方位をN-40°-Eに取る。規模は長軸長0.9m+α、短軸長0.7m、深さ0.15mを測る。

SK-22 <第25・59図>

SD-01の内側において検出した平面プランが不整長方形を呈すると思われる土壌である。長軸方位をN-40°-Wに取る。規模は長軸長1.4m、短軸長0.75m~1.0m、深さ0.7mを測る。

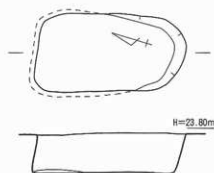
平面形状や壁面の立ち上がり状況及び底面フラットの状況から、貯蔵穴として機能していたものと考えられる。



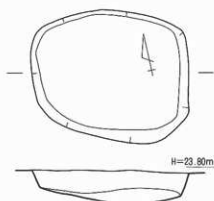
第25図 SK-22
実測図 [1/40]



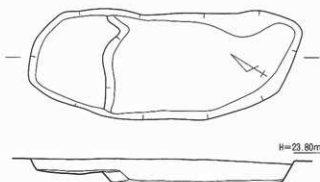
第26図 SK-23
実測図 [1/40]



第27図 SK-24
実測図 [1/40]



第28図 SK-25
実測図 [1/40]



第29図 SK-26 実測図 [1/40]

SK-23 <第26・59図>

SD-01の内側において検出した平面プランが隅丸長方形を呈すると思われる土壌である。長軸方位をN-85°-Eに取る。規模は長軸長1.2m、短軸長0.8m、深さ0.1m~0.15mを測る。

現状においては詳細不明と言わざるを得ないが、切り合い関係にないSK-20・22との位置状況から貯蔵穴として機能していた可能性も考えられる。

SK-24 <第27・59図>

調査区中央西側で検出した平面プランが隅丸長方形を呈する土壌である。長軸方位をN-15°-Wに取る。規模は長軸長1.6m、短軸長0.8m、深さ0.4mを測る。

垂直気味に立ち上がる壁面形状や、底面フラットの状況から貯蔵穴と考えられる。

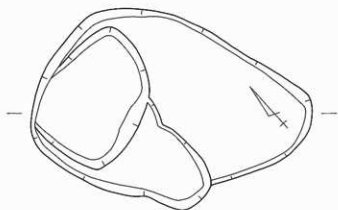
SK-25 <第28・60図>

調査区中央西側で検出した平面プランが楕円形を呈する土壌である。長軸方位をN-70°-Wに取る。規模は長軸長1.65m、短軸長1.35m、深さ0.35mを測る。

SK-26 <第29図>

調査区中央西側で検出した平面プランが隅丸長方形を呈する土壌である。長軸方位をN-32°-Wに取る。規模は長軸長2.8m、短軸長1.1m、深さ0.15m~0.25mを測る。

SK-20と同様、貯蔵穴として機能していたものと考えられ、在り方としては浅い北西側部分が昇降部、深い南東側部分が貯蔵穴本体となる。



SK-27 <第60図>

調査区中央西側で検出した平面プランが不整楕円形を呈する土壌である。長軸方位をN-82°-Wに取る。規模は長軸長1.35m、短軸長0.85m、深さ0.2mを測る。



第30図 SK-28 実測図 [1/40]

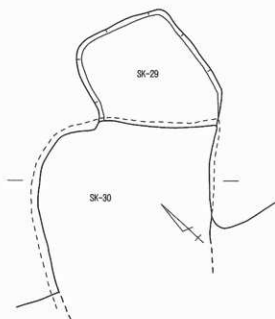
SK-28 <第30・60図>

調査区中央西側で検出した平面プランが不整楕円形を呈する土壌である。本来は3つの土壌が切り合いながら形成された形状であり、SK-28本体は底面がフラットとなっている最も浅い部分と考えられる。長軸方位をN-40°-Wに取る。規模は長軸長3.0m、短軸長1.95m、深さ0.15m~0.3mを測る。

SK-29 <第31・60図>

SD-01の内側において検出した平面プランが長方形を呈すると思われる土壌である。SK-30に切られる。長軸方位をN-16°-Eに取る。規模は長軸長1.4m+α、短軸長1.2m、深さ0.33mを測る。

平面形状や壁面の立ち上がり状況から、貯蔵穴として機能していたものと考えられる。



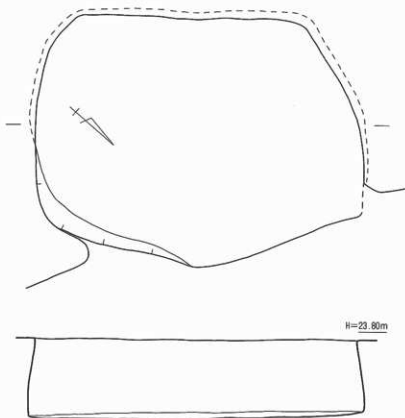
SK-30 <第31・60図>

SD-01の内側において検出した平面プランが長方形を呈すると思われる土壌である。SD-01に大きく切られており、詳細については不明な点が多い。長軸方位をN-40°-Eに取る。規模は長軸長1.9m+α、短軸長1.8m、深さ0.75mを測る。

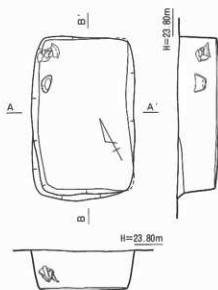


第31図 SK-29・30 実測図 [1/40]

平面形状や壁面の立ち上がり状況から、貯蔵穴として機能



第32図 SK-31 実測図 [1/40]



第33図 SK-32
実測図 [1/40]

能していたものと考えられる。底面北西側にある窪みは土壌内の湿気抜きのため、又は、梯子等昇降用の施設が存在していた可能性もある。

SK-31 <第32・60図>

調査区中央部西側で検出した平面プランが隅丸長方形を呈すると思われる土壌である。SD-01に切られる。長軸方位をN-37°-Wに取る。規模は現状で長軸長3.4m、短軸長2.5m、深さ0.85mを測る。

非常に大型で、平面規模で言えば当該遺跡中最大規模である。平面形状や壁面の立ち上がり、底面フラット等の状況から貯蔵穴として機能していたものと考えられる。

SK-32 <第33・61図>

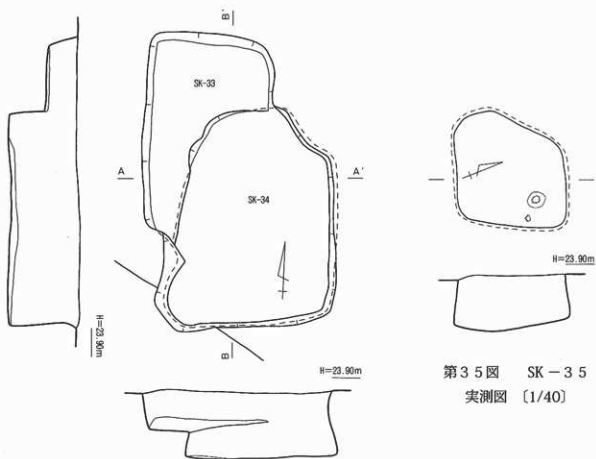
SD-01の内側において検出した平面プランが長方形を呈する土壌である。長軸方位をN-23°-Eに取る。規模は長軸長1.7m、短軸長1.1m、深さ0.4mを測る。

垂直気味に立ち上がる壁面形状や、底面フラットの状況から貯蔵穴と考えられる。平面形状はSK-20・24と共通しており、同時期に並行して存在していた可能性も考えられる。

SK-33 <第34図>

SD-01の内側において検出した平面プランが長方形を呈する土壌である。SK-34に切られる。長軸方位を南北に取る。規模は長軸長2.1m+α、短軸長1.35m、深さ0.4mを測る。

垂直気味に立ち上がる壁面形状や、底面フラットの状況から貯蔵穴と考えられる。平面形状はSK-



第34図 SK-33・34 実測図 [1/40]

第35図 SK-35
実測図 [1/40]

32と共通しており、SK-20・24と同様、同時期に並行して存在していた可能性も考えられる。

SK-34 <第34・61図>

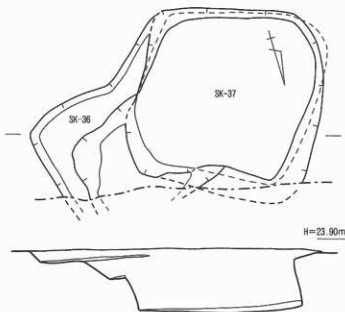
SD-01の内側において検出した平面プランが不整長方形を呈する土壌である。長軸方位を $N-4^{\circ}-W$ に取る。規模は長軸長2.3m、短軸長1.6m、深さ0.7mを測る。

オーバーハング気味に立ち上がる壁面形状や、底面フラットの状況から貯蔵穴と考えられる。当該遺跡中でSD-01より新しい遺構である事が確実な唯一の貯蔵穴である。

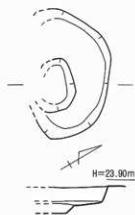
SK-35 <第35・61図>

SD-01の内側において検出した平面プランがやや不整形な方形を呈する土壌である。長軸方位を $N-22^{\circ}-E$ に取る。規模は主軸長1.15m、東西長1.25m、深さ0.6mを測る。

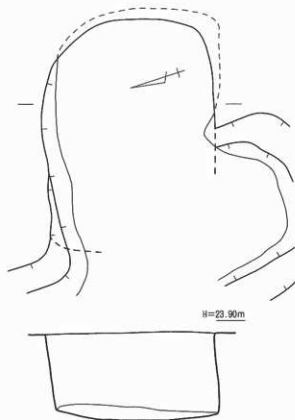
オーバーハング気味に立ち上がる壁面形状



第36図 SK-36・37 実測図 [1/40]



第37図 SK-38
実測図 [1/40]



第38図 SK-39 実測図 [1/40]

や、若干船底状ではあるが底面フラットの状況から貯蔵穴と考えられる。

SK-36 〈第36・61図〉

SD-01の内側において検出した土壌である。SK-37に切られ、一部は調査区外に延びており詳細については不明と言わざるを得ない。規模は現状で南北長1.2m+ α 、東西長1.5m+ α 、深さ0.1m~0.35mを測る。

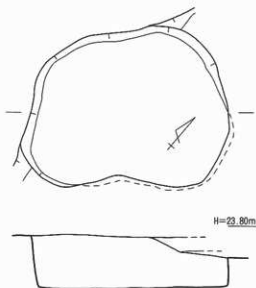
SK-37 〈第36・61・62図〉

SD-01の内側において検出した平面プランが隅丸正方形を呈する土壌である。主軸方位をN-30°-Eに取る。規模は主軸長1.92m、東西長1.92m、深さ0.7mを測る。

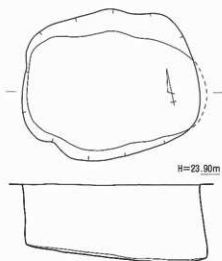
北東隅に浅いテラスがあるが、このテラス部分が昇降部、そこから続く深い部分が貯蔵穴本体となる。テラスから連続する本体部分への斜面は、他の3方とは異なりオーバーハングせずに急角度で下降している。この現象は当該位置が貯蔵穴への直接の入り口である事を示唆している。

SK-38 〈第37図〉

SD-01の内側において検出した平面プランが楕円形を呈すると思われる土壌である。一部は調査区外に延びており詳細については不明。SB-07に切られている。長軸方位をN-69°-Wに取る。規模は現状で長軸長1.38m、短軸長1.0m+ α 、深さ0.15m~0.25mを測る。



第39図 SK-40 実測図 [1/40]



第40図 SK-41 実測図 [1/40]

SK-39 〈第38・62図〉

SD-01の内側において検出した平面プランが隅丸長方形を呈すると思われる土壌である。SD-01に大きく切られており、詳細については不明な点が多い。長軸方位をN-76°-Wに取る。規模は長軸長2.2m+ α 、短軸長1.8m、深さ0.9mを測る。

平面形状や垂直に立ち上がる壁面、底面フラットの状況から貯蔵穴として機能していたものと考えられる。

SK-40 〈第39・62図〉

調査区西側で検出した平面プランがやや不整形な隅丸長方形を呈する土壌である。SB-07を切っている。長軸方位をN-48°-Eに取る。規模は長軸長2.15m、短軸長1.65m、深さ0.55mを測る。

垂直気味に立ち上がる壁面形状や、底面フラットの状況から貯蔵穴と考えられる。

SK-41 〈第40・63図〉

調査区西側で検出した平面プランがやや不整形な隅丸長方形を呈する土壌である。長軸方位をN-80°-Wに取る。規模は長軸長2.8m、短軸長2.35m、深さ1.2mを測る。

非常に大型で、当該遺跡中最大の深さを有している。平面形状や壁面の立ち上がり、西側から東側に向けやや斜角を生じているが底面はフラット気味となっている状況から、貯蔵穴として機能していたものと考えられる。

SK-42 〈第41・63図〉

調査区西側で検出した平面プランがやや不整形な長方形を呈すると思われる土壌である。本体部分の大半が調査区外に延びているため、詳細については不明。規模は現状で南北長0.65m+ α 、東西長1.5m+

α 、深さ 0.3m を測る。長方形気味な平面プランを成し、昇降部と思われる浅いフラット部を有している等の特徴から貯蔵穴の可能性が考えられる。

SK-43 <第42・63図>

調査区西側で検出した平面プランがやや不整形な長方形を呈する土壌である。SK-44 を切っている。長軸方位を $N-50^{\circ}-E$ に取る。規模は長軸長 1.6m、短軸長 0.85m、深さ 0.22m ~ 0.55m を測る。

北東側と南西側に浅いフラットを有している。この2つのフラットは底面からの比高差が 34cm あり、昇降用の段差としてはやや高い状況にある。また、単なる昇降用ならばフラットは1つで事を成し得るため、本来的な用途としてはフラット上に横板を渡し、その横板上に湿気(水気?)を嫌う保存物を置き、水分との直接的な接触を避け保存物の保管を成していたものと考えられる。構造的な状況からも貯蔵穴と判断出来る。

SK-44 <第42・63図>

調査区西側で検出した平面プランがやや不整形な隅丸長方形を呈する土壌である。SK-43 に切られ、SB-08 を切っている。長軸方位を $N-30^{\circ}-E$ に取る。規模は長軸長 1.75m、短軸長 1.5m、深さ 0.85m を測る。

垂直気味に立ち上がる壁面形状や、底面フラットの状況から貯蔵穴と考えられる。

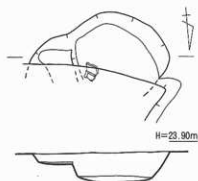
SK-45 <第43図>

調査区西側で検出した平面プランがやや不整形な方形を呈する土壌である。長軸方位を $N-70^{\circ}-W$ に取る。規模は主軸長 1.92m、南北長 2.04m、深さ 0.65m を測る。

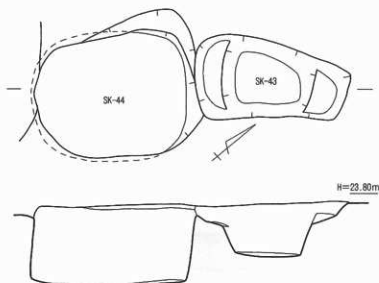
オーバーハング気味に立ち上がる壁面形状や、若干船底状ではあるが底面フラットの状況から貯蔵穴と考えられる。

SK-46 <第44図>

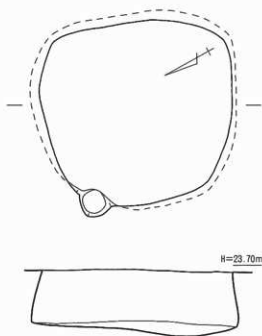
調査区西側で検出した平面プランが隅丸長方形を呈する土壌である。SK-47 に切られる。長軸方位を $N-31^{\circ}-W$ に取る。規模は長軸長 1.7m、短軸長 1.1m、深さ 0.13m を測る。



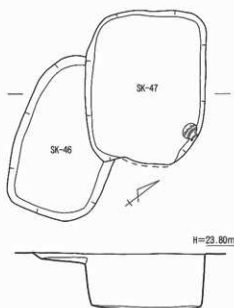
第41図 SK-42
実測図 [1/40]



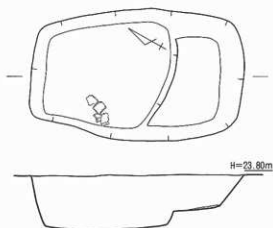
第42図 SK-43・44 実測図 [1/40]



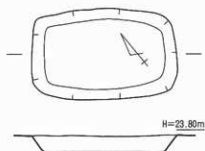
第43図 SK-45 実測図 [1/40]



第44図 SK-46・47 実測図
[1/40]



第45図 SK-48 実測図 [1/40]



第46図 SK-49 実測図
[1/40]

SK-47 〈第44・63・64図〉

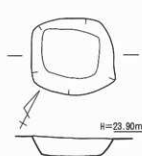
調査区西側で検出した平面プランが隅丸長方形を呈する土壌である。SK-46を切る。長軸方位をN-49°-Wに取る。規模は長軸長1.6m、短軸長1.25m、深さ0.6mを測る。

垂直気味に立ち上がる壁面形状や、底面フラットの状況から貯蔵穴と考えられる。平面形状はSK-32・33と共通しており、SK-20・24と同様、同時期に並行して存在していた可能性も考えられる。

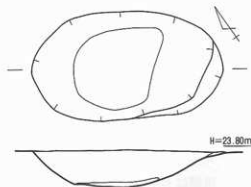
SK-48 〈第45・64図〉

調査区西側で検出した平面プランが長方形を呈する土壌である。長軸方位をN-30°-Wに取る。規模は長軸長2.25m、短軸長1.4m、深さ0.4m～0.58mを測る。

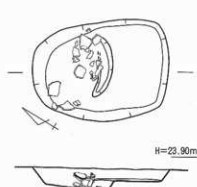
SK-20と同様、貯蔵穴として機能していたものと考えられ、在り方としては浅い南側部分が昇降部、深い北側部分が貯蔵穴本体となる。



第47図 SK-50
実測図 [1/40]



第48図 SK-51 実測図 [1/40]



第49図 SK-53
実測図 [1/40]

SK-49 <第46・64図>

調査区西側で検出した平面プランが長方形を呈する土壌である。長軸方位を $N-53^{\circ}-W$ に取る。規模は長軸長 1.5m、短軸長 1.0m、深さ 0.15m を測る。

平面プランが精美な長方形を成しているところから壁面の立ち上がりが少ない貯蔵穴の可能性も考えたが、ここでは通常の土壌として取り扱う。

SK-50 <第47図>

調査区西側で検出した平面プランが正方形を呈する土壌である。長軸方位を $N-84^{\circ}-E$ に取る。規模は長軸長 0.86m、短軸長 0.8m、深さ 0.2m を測る。

SK-51 <第48図>

調査区西側で検出した平面プランが楕円形を呈する土壌である。長軸方位を $N-53^{\circ}-W$ に取る。規模は長軸長 2.0m、短軸長 1.1m、深さ 0.38m を測る。

SK-52

調査区西側で検出した土壌である。本体部分の大半が調査区外にあり、詳細は不明である。規模は現状で南北長 $0.6m + \alpha$ 、東西長 $0.7m + \alpha$ 、深さ 0.15m を測る。

SK-53 <第49・64・65図>

調査区西側で検出した平面プランが隅丸長方形を呈する土壌である。長軸方位を $N-36^{\circ}-W$ に取る。規模は長軸長 1.45m、短軸長 1.0m、深さ 0.15m ~ 0.2m を測る。

平面プランが比較的精美な隅丸長方形を成しており、段構造を成しているところから、壁面の立ち上がりが少ない貯蔵穴の可能性も考えたが、通常の土壌として取り扱う。

SK-54 <第65図>

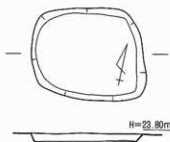
調査区西側で検出した不整形な土壌である。規模は南北長 1.0m、東西長 0.7m、深さ 0.1m を測る。

SK-55 <第65図>

調査区西側で検出した不整形な土壌である。規模は南北長 0.9m、東西長 1.14m、深さ 0.2m を測る。

SK-56 <第50図>

調査区西側で検出した平面プランが隅丸長方形を呈する土壌である。長軸方位を $N-80^{\circ}-E$ に取る。規模は長軸長 1.2m、短軸長 0.95m、深さ 0.1m を測る。



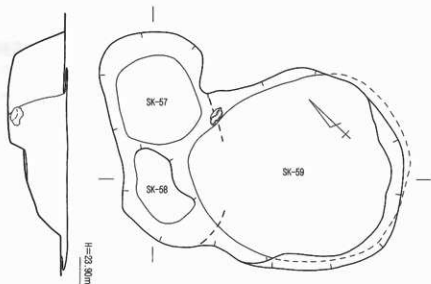
第50図 SK-56
実測図 [1/40]

SK-57 <第51・65図>

調査区西側で検出した平面プランが長方形を呈すると思われる土壌である。長軸方位を $N-32^{\circ}-E$ に取る。規模は長軸長 2.36m、短軸長 1.12m、深さ 0.45m～0.6m を測る。

平面形状や壁面の立ち上がり状況から、貯蔵穴として機能していたものと考えられる。

なお、調査時に別遺構として捉えられていたSK-58については、SK-57との接続関係及び平面形状の類似性を考慮すると当該遺構と同一遺構としか考えられず、本来の在り方としてはSK-58に該当する部分が昇降部、SK-57が貯蔵穴本体部分となる。



SK-58

<第51・65図>

調査区西側で検出した平面プランが長方形を呈する土壌である。詳細については前述したとおり、SK-57と同一遺構である。



第51図 SK-57・58・59 実測図 [1/40]

SK-59 <第51・66図>

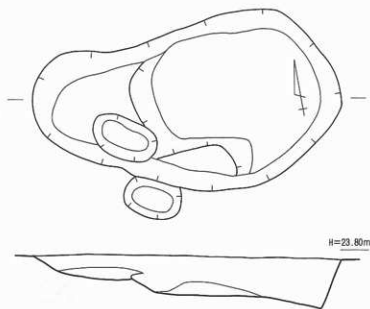
調査区西側で検出した平面プランが楕円形を呈する土壌である。長軸方位を $N-53^{\circ}-W$ に取る。規模は長軸長 2.5m、短軸長 2.15m、深さ 0.8m を測る。

南東側の壁面がオーバーハングしているのに対し、西側壁面は 45° 程度の斜角をもって底面に向かい下っている。これは先行していたSK-57・58の影響と思われる、SK-58の一部を昇降用の土壌として利用していた可能性がある。

平面形状や壁面の立ち上がり状況や底面がフラットとなっている状況から、貯蔵穴として機能していたものと考えられる。

SK-60 <第52・66図>

調査区西側で検出した平面プランが不整形楕円形を呈する土壌である。長軸方位をN-81°-Wに取る。規模は長軸長3.3m、短軸長1.1m~1.9m、深さ0.23m~0.45mを測る。



SK-61

調査区西側で検出した不整形な土壌である。本体部分の大半が調査区外に延びており、詳細については不明。規模は現状で南北長0.6m+α、東西長1.4m+α、深さ0.15mを測る。

環濠

第52図 SK-60 実測図 [1/40]

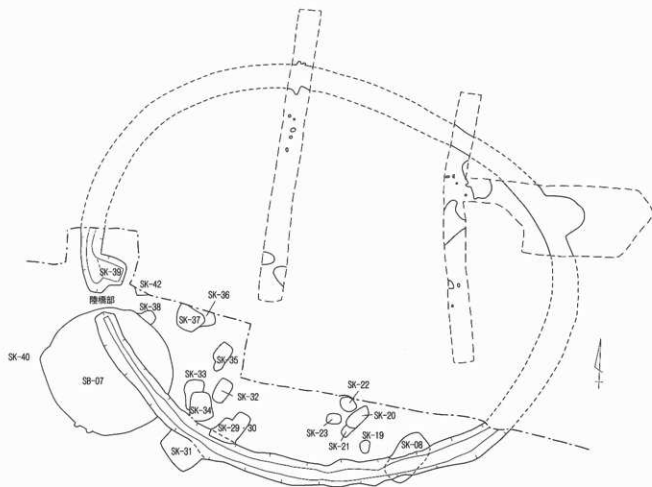
SD-01 <第53・66~71図>

調査区の中央北辺において検出した環濠遺構。当該調査区においては全体の約4割に相当する52m分が現出しているに過ぎないが、全体像の把握のために周辺に設定したトレンチにより長軸方向の規模は外径40.2m、内径36.6m、短軸方向の外径32.1m、内径28.2mを測る卵形(楕円形)状の単環濠(一重環濠)である事が判明している。環濠の幅は北辺部で1.5m~1.65m、南辺部で1.8m~2.25mを測る。底部幅については、南辺部分のみ掘削調査が実施されているため北辺部の状況は不明であるが、0.45m~0.9mの規模が確認出来ている。北辺部が僅かに直線的となっており、南北辺の形が非対称となる。また、遺存している環濠幅も相対的に南北間で差異が見られるところから、環濠掘削が統一された単一の作業単位(集団)で実行された訳ではなく、環濠自体の形状や規模の差は、少なくとも共同体の構成単位が2つ以上存在していた可能性を示唆しているものと思われる。

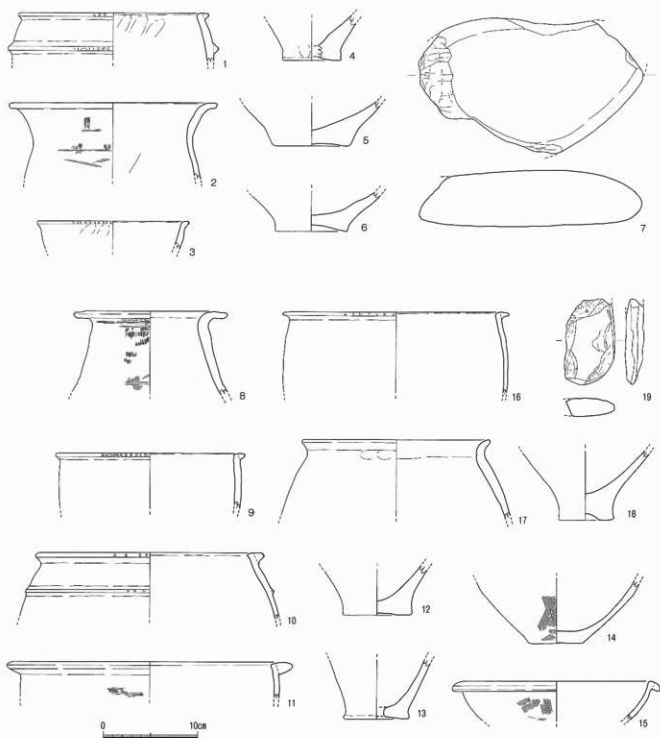
環濠の西端には現況で幅1.2mの陸橋部が確認されている。これ以外にも陸橋部が複数存在する可能性もあるが、全体規模を考えれば単体での存在だと思われる。基本的には基盤土の掘削によって造られたものであるが、大きく時期が異ならないSB-07を切る形で造られた構造物であるにもかかわらず、未だ埋没途中と考えられる旧遺構部分であるSB-07に陸橋部を意図的に設ける事は、いささか疑問を感じざるを得ない。

環濠内側の状況については、トレンチ部分も含め全体の3割程度しか掘削調査が行われていないため不明な部分が多いが、検出された遺構の多くは南辺側に集中しており、北辺側についてはトレンチ調査部分を見る限り遺構が少ない印象を受ける。この現象についての解釈は、南辺側に集中する遺構の中に環濠と比較して一段階古い様相を呈する竪穴住居群と時期的に並行すると思われる貯蔵穴群が多数含まれる、という点を考慮しなければならないと思われる。

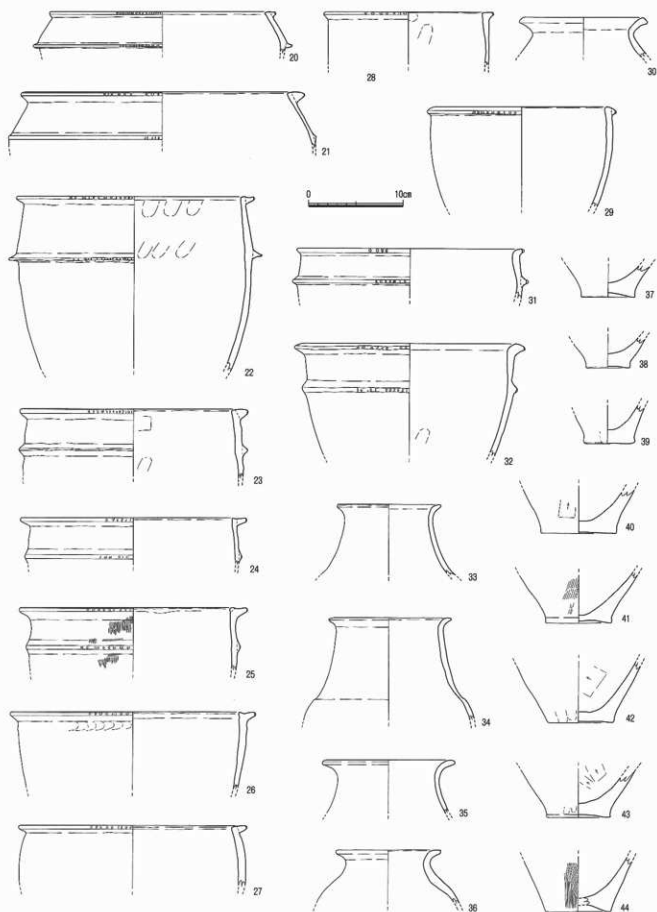
検出された遺構は、ほぼ全て貯蔵穴と考えられるものである。柱穴状の小ピットや、貯蔵穴と認識出来ない遺構もあるが、数は圧倒的に少数である。この事実は、当該環濠が持つ本来的な性格の一端を示しているものと思われるが、上述した環濠内側部分での遺構密度の濃淡の差を含め、環濠が掘削された要因が単に貯蔵穴と食料の保護のみならず、掘削すべき理由が他にも包含されている可能性も考慮すべきものと思われる。出土土器から掘削開始期は前期末頃、埋没時期は中期前半頃が想定される。



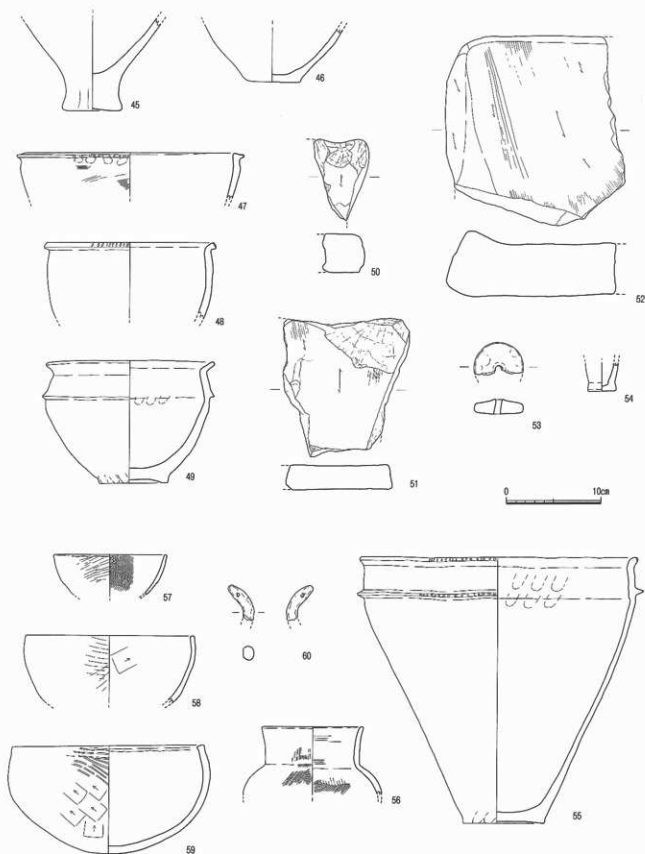
第53図 SD-01 (環濠) 実測図 [1/300]



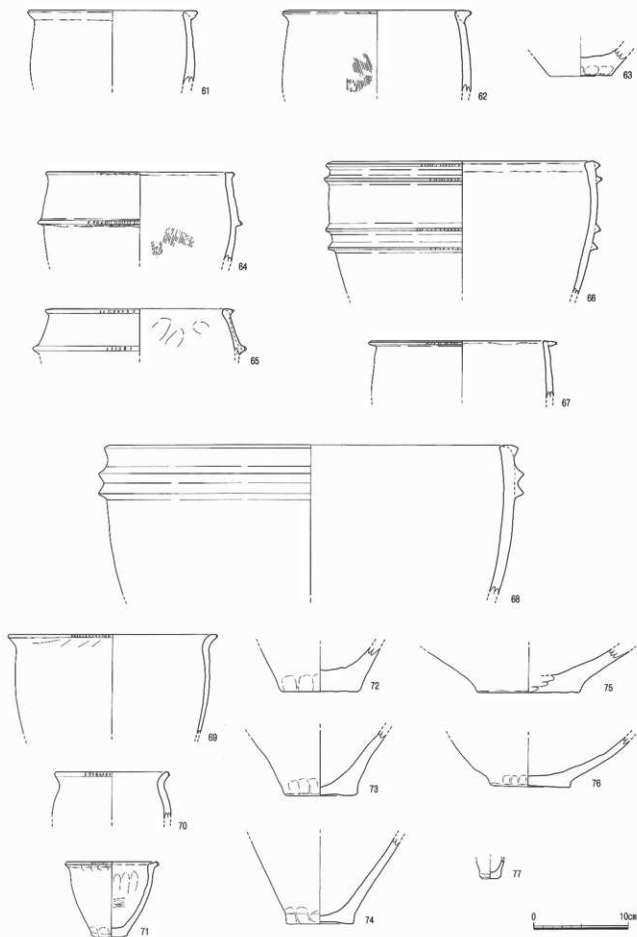
第54図 SB-01(1~7)、SB-02(8)、SB-03(9~15)、SB-04(16~19)
出土遺物 実測図 [1/4]



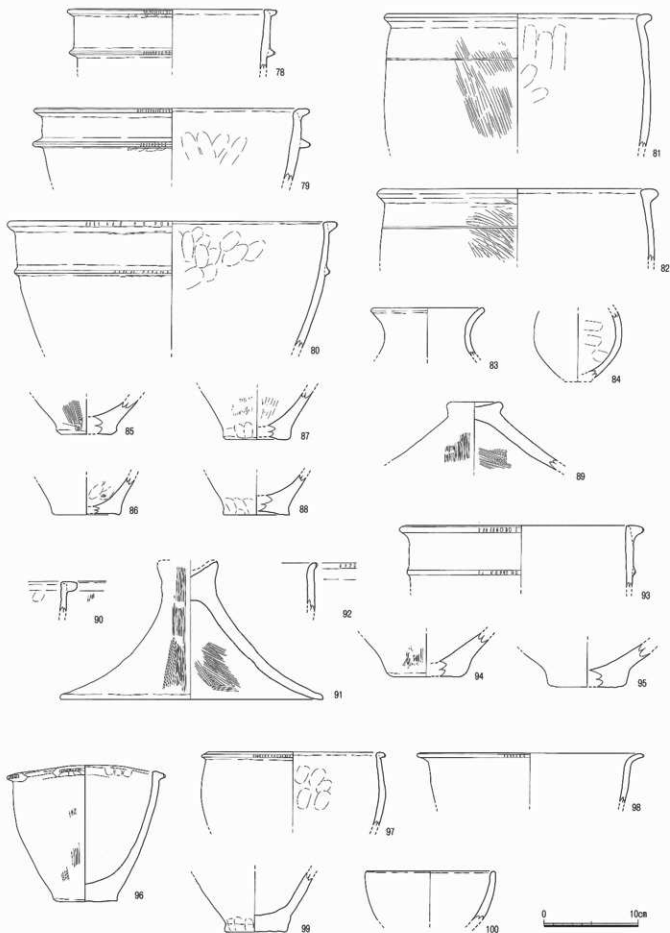
第55図 SB-07(20~44) 出土遺物 実測図 [1/4]



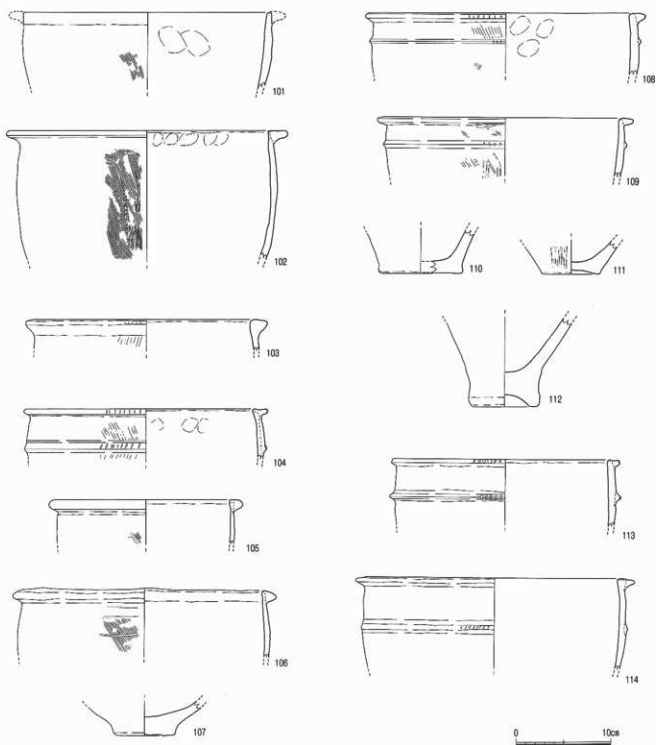
第56図 SB-07(45~54)、SB-09(55~60) 出土遺物 実測図 [1/4]



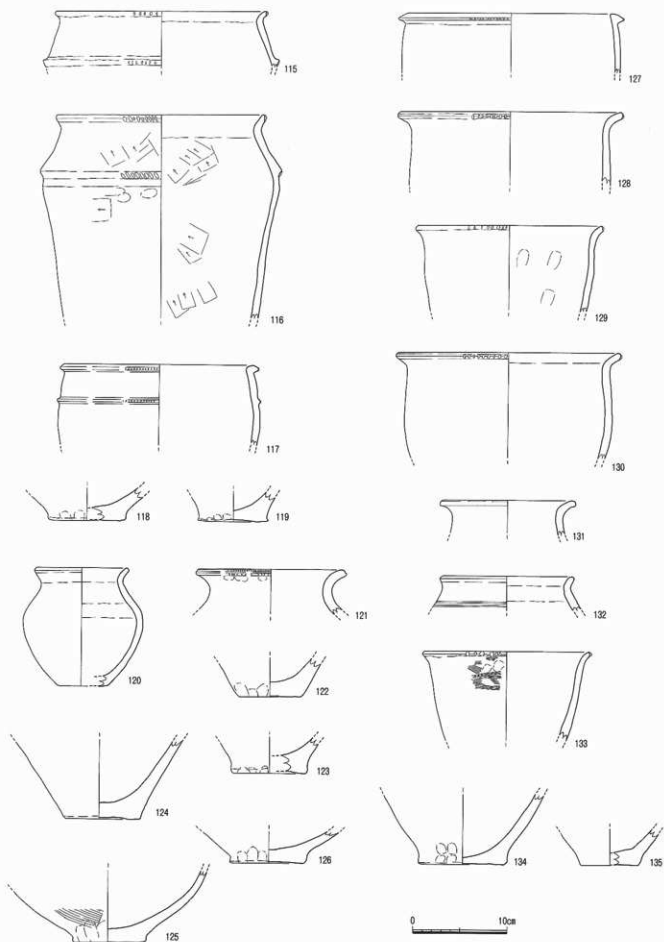
第57図 SK-01(61)、SK-03(62・63)、SK-07(64～77) 出土遺物 実測図 [1/4]



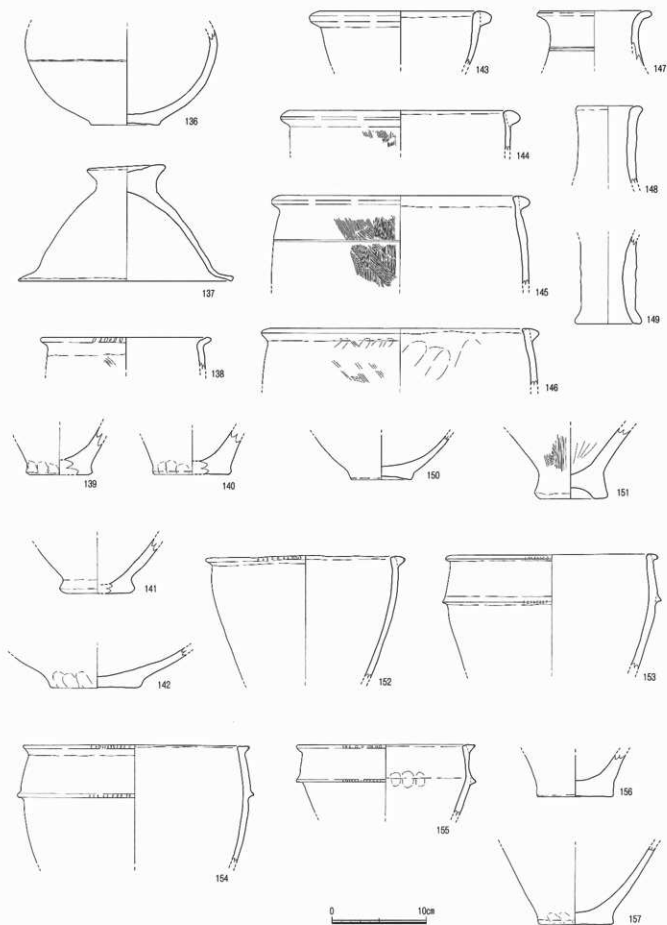
第58図 SK-08(78~89)、SK-11(90~91)、SK-12(92)、SK-13(93~95)、SK-15(96~100) 出土遺物 実測図 (1/4)



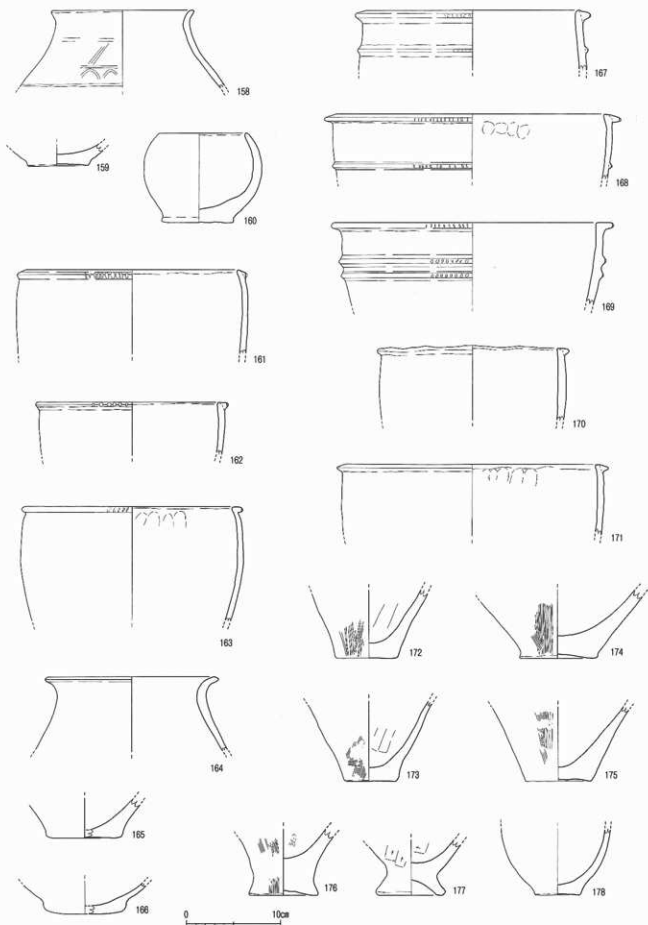
第59図 SK-16(101・102)、SK-17(103)、SK-20(104~107)、SK-22(108~112)
SK-23(113)、SK-24(114) 出土遺物 実測図 [1/4]



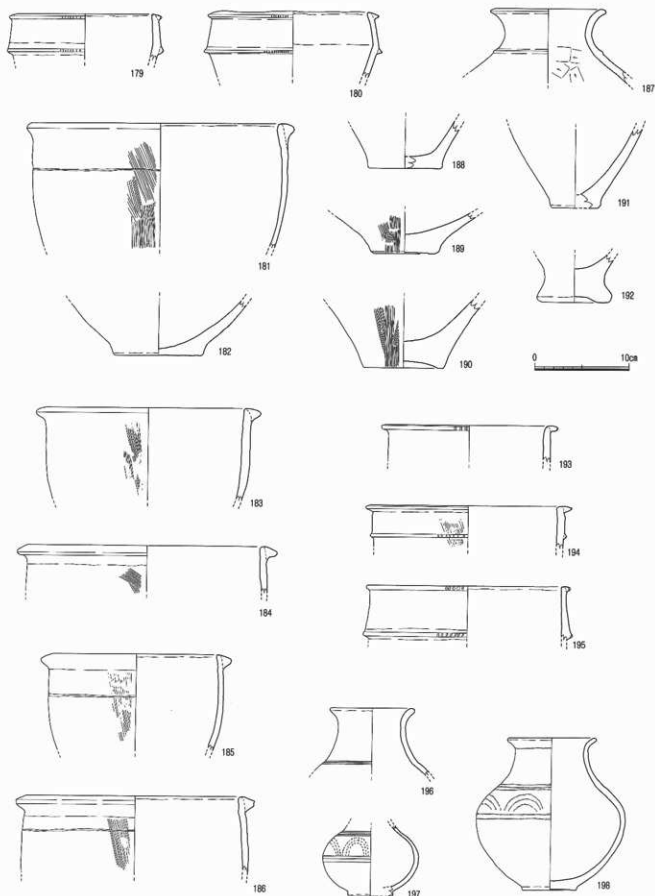
第60図 SK-25(115~119)、SK-27(120)、SK-28(121~123)、SK-29(124)
SK-30(125・126)、SK-31(127~135) 出土遺物 実測図 [1/4]



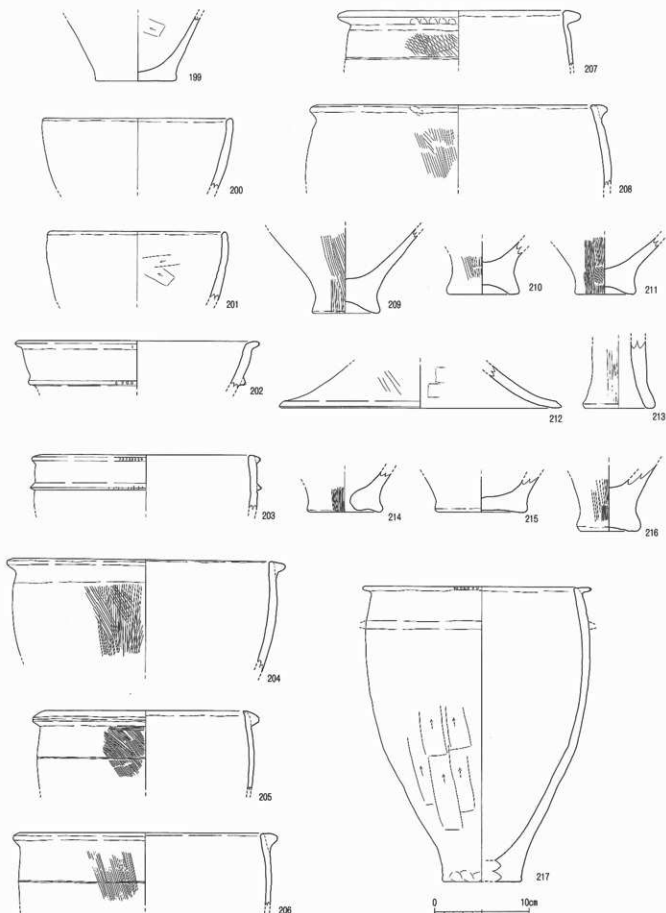
第61図 SK-3 2(136・137)、SK-3 4(138～140)、SK-3 5(141・142)、SK-3 6(143～151)、SK-3 7(152～157) 出土遺物 実測図 [1/4]



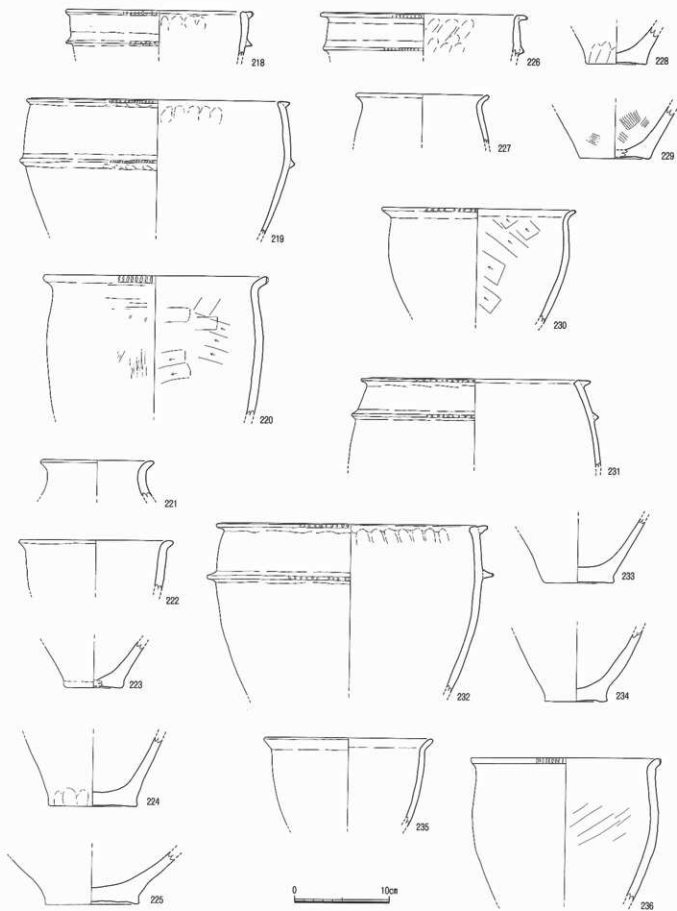
第62図 SK-37(158~160)、SK-39(161~166)、SK-40(167~178)
出土遺物 実測図 [1/4]



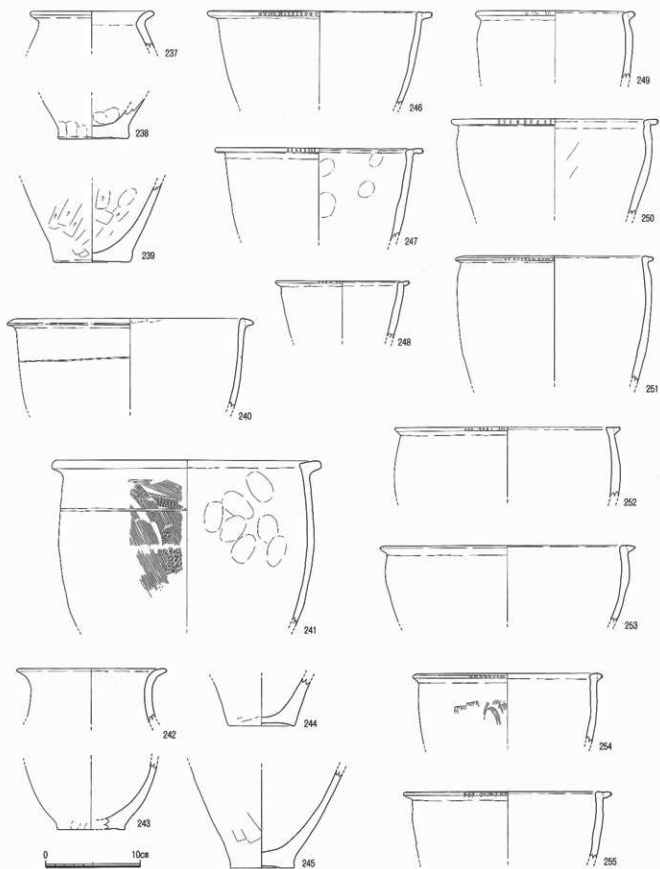
第63図 SK-4 1 (179~182)、SK-4 2 (183・184)、SK-4 3 (185~192)
SK-4 4 (193~195)、SK-4 7 (196~198) 出土遺物 実測図 [1/4]



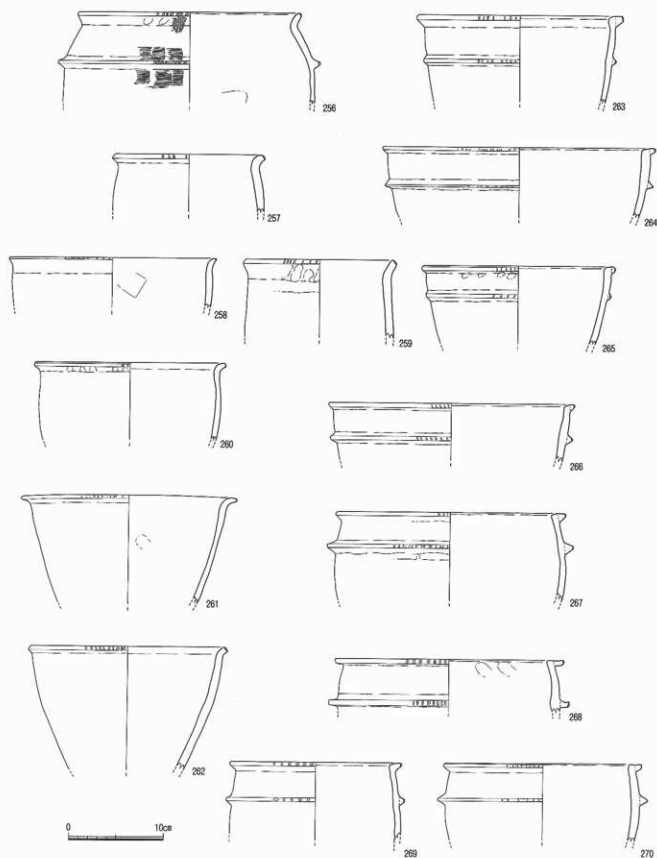
第64図 SK-47(199~202)、SK-48(203~213)、SK-49(214~216)、SK-53(217)
出土遺物 実測図 [1/4]



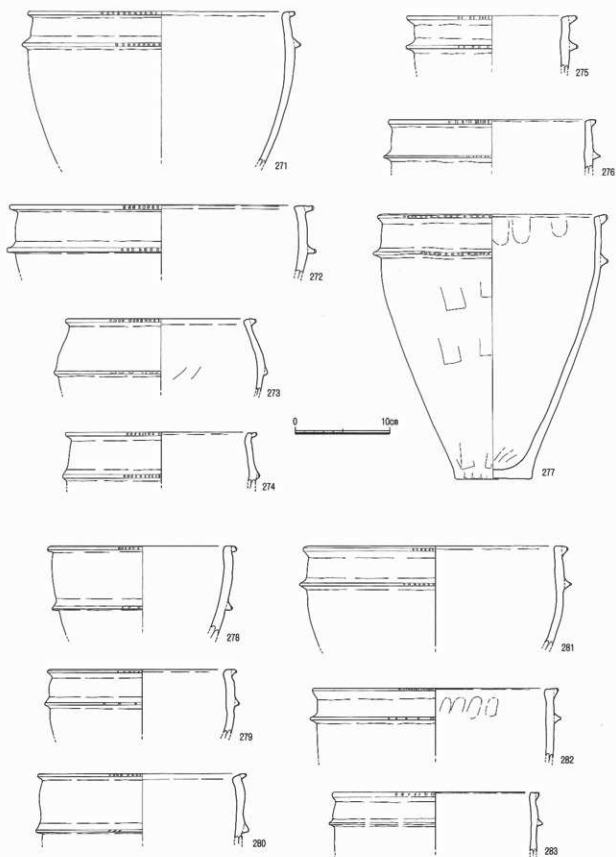
第65図 SK-5 3(218~225)、SK-5 4(226~229)、SK-5 5(230)、SK-5 7(231~235)、
SK-5 8(236) 出土遺物 実測図 [1/4]



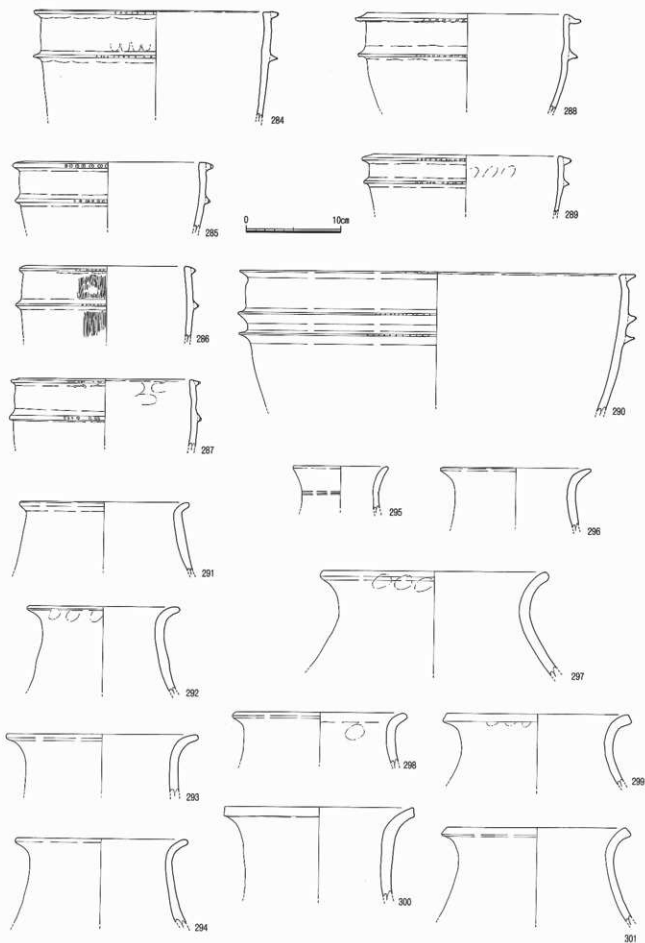
第66図 SK-59(237~239)、SK-60(240~245)、SD-01(246~255)
出土遺物 実測図 [1/4]



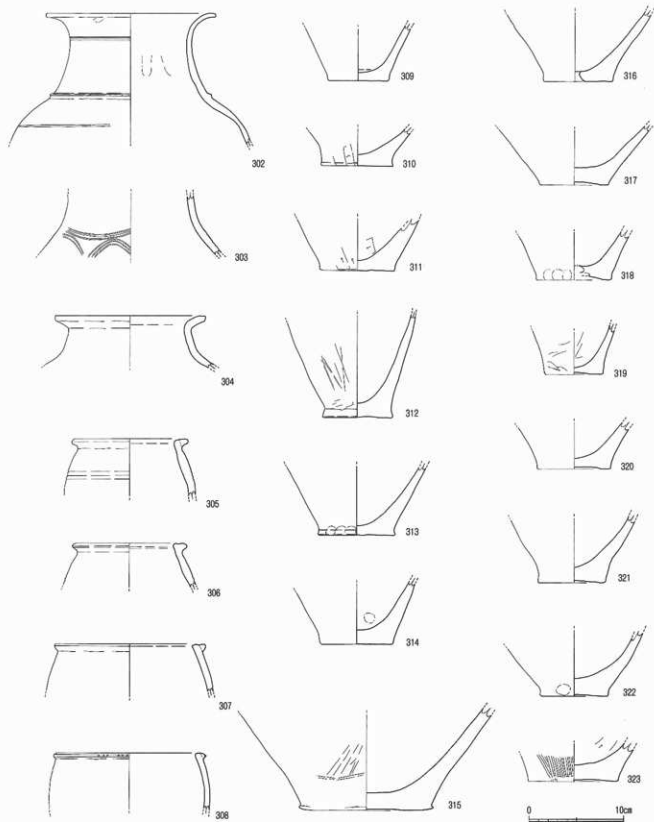
第67図 SD-01 出土遺物 実測図 [1/4]



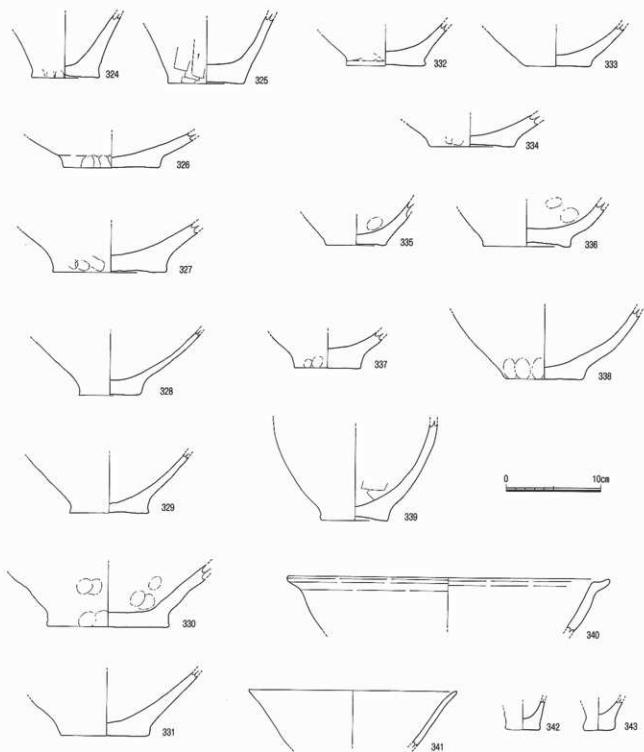
第68図 SD-01 出土遺物 実測図 [1/4]



第69图 SD-01 出土遗物 实测图 [1/4]



第70図 SD-01 出土遺物 実測図 [1/4]



第71図 SD-O1 出土遺物 実測図 [1/4]

総括

ここまで宿町遺跡検出の遺構について概観してきたが、ここで当該遺跡の特徴について遺構種類ごとに以下に記述し、歴史的意義も含めて考察し、総括としたい。

1) 竪穴住居について（円形竪穴住居と環濠形成の関係性）

宿町遺跡内には多数の住居跡が検出されているが、諸事の理由により完掘されたものは9軒にとどまる。この状況下で総体的な論及は困難だが、掘削調査が実施された住居分について言及したい。

住居跡は円形（前期）と長方形（後期）に大別される。一部に隅丸長方形と思われるものもあるが、本項においては言及しない。

円形住居の柱穴配置を観察すると、中央地炉両端に2穴が存在するもの（1類）と存在しないもの（2類）に分類できる。1類にはSB-01・03が挙げられ、SB-01はSB-02を切る当該遺跡では新参にあたる住居に相当する。1類の住居は「松菊里タイプ」と呼ばれる外来系の要素を持つ住居で、調査区の東方、環濠（SD-01）の南東側に隣接する状況で存在している。2類にはSB-07・08があり、当該弥生前期後半に該当する集落形成の先鞭をつけた形式の住居であると思われる。未掘住居が多数存在する現状では詳細は記述出来ないが、概ね調査区の西側に集中域を持つものと思われる。

環濠との位置関係や切り合い状況を観察すると、1類住居は環濠の南東に、2類住居は南西側に展開しており比較的明確に選定区域が分かれ、2類住居は1類住居及び環濠に切られている事が分かる。また、環濠とSB-03の位置関係は、当時の立地状況を想定復元してもつかず離れずの絶妙な位置にあり、これら状況を勘案すると、集落形成の礎を築いた2類住居の居住者の中に1類住居の居住者が加わり、後者が環濠掘削事業に対し大きな役割を担っていたものと推定出来る。しかしながら、出土遺物の観察からは1類の特殊性や優位性は認められず、住居形態の一部に外来要素が認められるのみであることから、環濠形成の主体は在来勢力からの内部発生と思われる。

SB-01・03内に見られる主柱穴には立て替えの結果と思われる柱穴の切り合いが存在するが、柱立て替えは1回のみで終了しており、住居の存続時期は比較的短いものと考えられる。環濠出土土器の観察でも同様の状況が見られ、1類住居と環濠には相関的な関係が想定出来る。

八女地域における弥生時代前期後半頃のこの時期、在来の弥生文化に突如新来の文化が流入し環濠の形成が始まるが、当該遺跡の観察だけではその社会的要因や動向を知る事は出来ない。今後の調査例増加や更なる当該時期の検証と再評価も含め、詳細な検討を行う事が今後の課題となろう。

2) 貯蔵穴について

未掘部分も含め、宿町遺跡内に存在する貯蔵穴はその大半が環濠の南西側、特にSB-07周辺に集中している。理由は定かではないが、SB-07を中心として放射状に集中部を有している事は否定出来ない。平面プランを見ると、不整円形（Aタイプ）→幅広大型長方形（Bタイプ）→縦長長方形・長方形・小型方形（Cタイプ）へと変化する方向性が見られる。

Bタイプの多くは環濠に切られることから、A・Bタイプの貯蔵穴は環濠掘削以前の産物である事がわかる。

Cタイプの中には縦長長方形・長方形のものが環濠外にある貯蔵穴と構造的な共通性が見られ、それらが3～4基程度でグループを構成している。このタイプの貯蔵穴が最盛期を迎える時期に環濠が成立したものであると思われる。小型方形の貯蔵穴はその分布の中心を環濠外にもっており、環濠が廃絶された後に造営されたものと考えられるが、各グループの構成状況を見る限りでは縦長長方形と小型方形は同時並行では

ないものの共存関係にあり、その時期差は非常に短いものと思われる。

3) 楕円形環濠について

現段階において八女市域では、本例を含め亀ノ甲遺跡、立野・大坪遺跡の3遺跡で弥生時代前期後半頃(板付Ⅱ式併行期)の円形(楕円形)環濠が検出されている。

亀ノ甲遺跡の環濠は本例同様一重環濠であるが、断面形は深いV字溝を成しており、更に環濠直径も18.5m前後の規模が推測される。環濠内部の状況は未調査のため詳細は不明であるが、環濠断面の形状や全体規模の大きさから生産物の貯蔵施設だけでなく、居住域も含めた区域を囲んでいたものと思われる。

立野・大坪遺跡の環濠は、他の遺跡の環濠とは様子が異なり推定直径80m～100mの二重環濠となっている。外濠は幾分小規模ではあるがV字溝を成しており、内濠は検出面での幅5.2mを測る規模の大きな断面逆台形の溝を成している。環濠自体は全体の約1/4の検出にとどまっているが、内濠内部からは長方形を主体とした貯蔵穴群に加え掘立柱建物も検出されており、居住域は含まれていないと思われるが生産物の貯蔵を主目的とした造営が推測出来る。これを裏付けるように外濠と内濠の間には遺構が殆ど見られず空白地帯となっており、選地段階から高い計画性が持たれていたものと思われる。

前述2例の環濠について概観したが、本例と比較した上で以下にその差異について記述する。

宿町遺跡の環濠は亀ノ甲遺跡で検出されたのと同じ一重環濠であるが、規模は南北32.1m、東西40.2mとかなり小型であり、生産物貯蔵施設と考えられる立野・大坪遺跡と比較しても規模は1/2以下である。また、濠の断面形を比較しても検出面幅が2m以下と小規模となっており、動物を中心とした外敵(害獣)から生産物を防御するには脆弱さが目立つ。環濠内部に存在する貯蔵穴群についても、南側にある程度の基数が存在するものの、北側には遺構そのものの存在が希薄であり、また、環濠成立と同時期の貯蔵穴が環濠外に散在する事も含め、本例の環濠が生産物貯蔵を主目的とした施設として当初から計画されていたものとは考えにくい事象が多く見られる。

以上の点から推察すると、宿町遺跡の環濠は宗像市所在の光岡長尾遺跡(一重環濠)、小都市所在の横隈北田遺跡(一重環濠)、苅田町所在の葛川遺跡(一重環濠)のような「貯蔵穴専用環濠」とは異なり、生産物の防御とは異なる造営要素も考慮する必要があると思われる。

埴田	番号	実測 番号	出土遺構	種別	口径 (長) (cm)	底径 (幅) (cm)	器高 (厚) (cm)	調整	色調・胎土・焼成	備考
54 図	1	R-207	SB-01	甕	19.8			削み目、ヨコナデ	黒灰色、1~5mm大の砂粒を含む、やや不良	
	2	R-205	"	壺	22			ヨコナデ、刷毛目	黄灰褐色、1~3mm大の砂粒を含む、普通	
	3	R-206	"	壺	16			削み目、ヨコナデ	黄灰褐色、砂粒を含む、普通	
	4	R-203	"	甕		6		ナデ	黄褐色、1~4mm大の砂粒を含む、不良	
	5	R-201	"	甕		8.4			茶褐色、小石が多い砂粒を含む、不良	
	6	R-202	"	甕		7.6		ナデ調整、ナデ	暗黄灰褐色、1~5mm大の砂粒を含む、普通	
	7	R-4	"	すり石	13.6	23.6	6			花崗岩
	8	R-208	SB-02	壺	16.2			ヨコナデ、刷毛目のちヨコナデ、刷毛目	暗赤茶褐色、1~5mm大の砂粒を含む、普通	
	9	R-224	SB-03	甕	20			ヨコナデ、削み目、ナデ	暗黄褐色、白土、砂粒を含む、普通	
	10	R-222	"	甕	24.2			削み目、ヨコナデ	暗黄灰褐色、砂粒を含む、やや不良	
	11	R-223	"	甕	30.2			ヨコナデ、刷毛目	砂粒を多く含む、普通	
	12	R-210	"	甕		7.3		ナデ	1~5mm大の砂粒を含む、普通	
	13	R-211	"	甕		7		ナデ、ナデ調整	暗赤黄灰褐色、砂粒を含む、やや不良	
	14	R-212	"	壺		5.6		刷毛目	暗黄灰褐色、砂粒を含む、普通	
	15	R-213	"	高坏	22			ヨコナデ、刷毛目	暗黄灰褐色、砂粒を含む、普通	
	16	R-232	SB-04	甕	24			削み目、ヨコナデ	暗黄茶褐色、砂粒を多く含む、不良	
	17	R-231	"	甕	19.6			ヨコナデ	黄灰褐色、1~4mm大の小石、砂粒を多く含む、不良	
	18	R-233	"	甕		5.8		ナデ	黄茶褐色、小石、砂粒を多く含む、不良	
	19	R-6	"	石斧	9	5.2	2			蛇紋岩
55 図	20	R-359	SB-07	甕	23.8			削み目、ヨコナデ	黄茶褐色、砂粒を含む、普通	
	21	R-355	"	甕	29.8			削み目、ヨコナデ	暗黄褐色、砂粒を含む、やや不良	
	22	R-444	"	甕	25.4			削み目、ヨコナデ、ヘラ調整	暗黄灰褐色、1~5mm大の小石、砂粒を含む、やや不良	
	23	R-351	"	甕	24			削み目、ヨコナデ	黄褐色、小石が多い砂粒を含む、やや不良	
	24	R-362	"	甕	23.8			削み目、ヨコナデ	黄灰褐色、小石、砂粒を含む、やや不良	
	25	R-397	"	甕	24			ヨコナデ、削み目、刷毛目	黄灰褐色、白土、砂粒を含む、やや不良	
	26	R-237	"	甕	26			削み目、ヨコナデ、ナデ	暗黄灰褐色、1~7mm大の小石、砂粒を含む、普通	
	27	R-393	"	甕	24			削み目、ヨコナデ、ナデ調整	暗黄灰褐色、砂粒を含む、普通	
	28	R-249	"	甕	17.8			削み目、ヨコナデ	黄灰褐色、砂粒を含む、普通	
	29	R-241	"	甕	19.8			削み目、ヨコナデ	黄褐色、1~3mm大の小石、砂粒を含む、やや不良	
	30	R-248	"	壺	12.6			ヨコナデ	黄褐色、小石が混ざる砂粒を含む、普通	
	31	R-360	"	甕	24.2			削み目、ヨコナデ	暗黄褐色、小石が混ざる砂粒を含む、普通	
	32	R-395	"	甕	24.2			削み目、ヨコナデ	黄灰褐色、砂粒を含む、やや不良	
	33	R-236	"	長頸壺	11			ヨコナデ	暗茶褐色、砂粒を含む、やや不良	
	34	R-445	"	長頸壺	13			ヘラ磨き	暗黄灰褐色、砂粒を含む、不良	
	35	R-242	"	壺	14			ヨコナデ	暗黄茶褐色、小石が混ざる砂粒を含む、普通	
	36	R-240	"	壺	11			ヨコナデ	暗黄茶褐色、1~3mm大の小石、砂粒を含む、やや不良	
	37	R-380	"	甕		5.6		ヨコナデ、ナデ	暗褐色、白土が混ざる砂粒を含む、普通	
	38	R-377	"	甕		4.7		ヨコナデ、ナデ	茶褐色、砂粒を含む、普通	
	39	R-381	"	甕		5.3		ナデ	赤茶褐色、砂粒を含む、普通	
	40	R-239	"	甕		8		ナデ調整、ヨコナデ、ナデ	黄茶褐色、1~5mm大の小石、砂粒を含む、普通	
	41	R-371	"	甕		6.8		刷毛目、ナデ	黄灰褐色、1~4mm大の小石、砂粒を含む、普通	
	42	R-373	"	甕		7		ナデ	黄灰褐色、小石が混ざる砂粒を含む、普通	
	43	R-367	"	甕		6.8		ヨコナデ、ヘラ調整	黄茶灰褐色、1~3mm大の小石、砂粒を含む、普通	
	44	R-238	"	甕		6.8		刷毛目、ナデ	黄茶褐色、砂粒を含む、普通	

第 1 表 出土遺物観察表 (1)

押図	番号	実測 番号	出土遺構	種別	口径 (長) (cm)	底径 (短) (cm)	器高 (高) (cm)	調整	色調・胎土・焼成	備考
56図	45	R-385	SB-07	壺		6.3		ナデ調整、ナデ、ヨコナデ	黄赤褐色、1~5mm次の小石、砂粒を含む、普通	
"	46	R-372	"	壺		5.8		ナデ	黄灰褐色、1~4mm次の小石、砂粒を含む、やや不良	
"	47	R-354	"	壺	24.2			ヨコナデ、刷毛目、横方向の刷毛目	黄赤褐色、小石が混ざる砂粒を含む、普通	
"	48	R-246	"	鉢	17.6			刷毛目、ヨコナデ	淡黄灰褐色、3mm次の小石、砂粒を含む、やや不良	
"	49	R-399	"	壺	17.5	7.3	12.9	ヨコナデ、ナデ	黄灰褐色、1~5mm次の小石、砂粒を含む、やや不良	
"	50	R-8	"	磁石	8.6	4.5	4.1			
"	51	R-3	"	磁石	13.4	11.4	2.5			
"	52	R-1	"	磁石	19.6	18	5.6			
"	53	R-a	"	紡錘車	5.3		1.6		淡茶褐色、片蓋、石炭、赤色細砂粒を含む、良好	
"	54	R-391	"	ミニチュア		3		ヨコナデ、ナデ	黒灰色、砂粒を含む、普通	
"	55	R-403	"	壺	29.3	8.6	28	刷毛目、ヨコナデ、ナデ	淡黄褐色、7mm次の小石、砂粒を含む、普通	
"	56	R-400	SB-09	壺	10.6			刷毛目のちヨコナデ、刷毛目	黄赤褐色、小石が混ざる砂粒を含む、普通	
"	57	R-402	"	椀	12			刷毛目、ヨコナデ	黄灰褐色、砂粒を含む、普通	
"	58	R-401	"	鉢	17.8			タキ?	黄赤褐色、砂粒を含む、普通	
"	59	R-404	"	鉢	20.3		11.4	ヨコナデ、ヘラズリ、タキ?	黄赤褐色、小石が混ざる砂粒を含む、やや不良	
"	60	R-b	"	土製勾玉	4.5	1.2	1.5		淡茶褐色、片蓋、赤色細砂粒を含む、良好	
57図	61	R-74	SK-01	壺	17.6			ナデ	黄褐色、2mm次の砂粒を多く含む、不良	
"	62	R-76	SK-03	壺	20			ナデ、刷毛目のあと、指押さえ痕、刷毛目	黄灰褐色、赤色粒子、砂粒を含む、不良	
"	63	R-75	"	壺		6.4		指ナデ	淡黄褐色、1mm次の砂粒を多く含む、不良	
"	64	R-288	SK-07	壺	20			ナデ、刷毛目、指押さえ痕	乳白色、赤色粒子、2mm次の白色粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	65	R-82	"	壺	20			ナデ、刷毛目、横方向のナデ	乳白色、砂粒を含む、やや不良	
"	66	R-93	"	壺	27.4			刷毛目、ナデ	乳白色、砂粒を含む、不良	
"	67	R-83	"	壺	19			横方向のナデ、刷毛目、ナデ	黄褐色、白色粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	68	R-99	"	壺	42.4			ナデ	乳白色、赤色粒子、白い2~3mm次の小石、砂粒を多く含む、不良	
"	69	R-92	"	壺	22			刷毛目、ナデ	乳白色、5mm次の小石、砂粒を含む、やや不良	
"	70	R-81	"	壺	12.2			刷毛目、ヨコナデ	淡黄灰褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	71	R-89	"	壺	9.6	3.95		刷毛目、指押さえ痕、ナデ	黄赤褐色、1~2mm次の小石、砂粒を含む、やや不良	
"	72	R-87	"	壺		8		指押さえ痕	乳白色、2~3mm次の砂粒を多く含む、不良	
"	73	R-96	"	壺		7.9		指押さえ痕、ナデ	黄褐色、5mm次の小石が多少砂粒を含む、やや不良	
"	74	R-90	"	壺		7		ナデ、指押さえ痕	淡黄褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	75	R-95	"	壺		11			淡黄褐色、5mm次の砂粒を含む、不良	
"	76	R-94	"	壺		8.6		ヘラ調整、ナデ	黄赤褐色、白い砂粒を含む、不良	
"	77	R-91	"	ミニチュア		2.3			乳白色、赤色粒子、砂粒を含む、不良	
58図	78	R-451	SK-08	壺	22.2			ナデ、刷毛目、指押さえ痕	灰褐色、赤色粒子、白色粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	79	R-300	"	壺	29.6			ヨコナデ、刷毛目、ナデ、指押さえ痕、刷毛目	淡黄赤褐色、4mmの小石や灰粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	80	R-464	"	壺	34.8			ヨコナデ、刷毛目、押さえ痕	淡黄乳白色、2~3mm次の砂粒を多く含む、やや不良	胴部久欠付
"	81	R-461	"	壺	28.4			ヨコナデ、刷毛目	淡黄灰褐色、1~2mm次の白い砂粒を含む、やや不良	
"	82	R-460	"	壺	29.8			ナデ、刷毛目	明茶灰褐色、赤色粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	83	R-462	"	壺	11.6			ヨコナデ	灰褐色、赤色粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	84	R-299	"	壺				ナデ	褐色、赤色粒子、砂粒を含む、不良	
"	85	R-294	"	壺		5		刷毛目、ナデ、圧痕	淡黄明茶乳白色、白い砂粒を含む、やや不良	
"	86	R-296	"	壺		6.8		ナデ	淡黄赤褐色、砂粒を多く含む、不良	
"	87	R-295	"	壺		6.5		刷毛目、ナデ	乳白色、砂粒を含む、不良	
"	88	R-293	"	壺		7		ナデ	乳白色、3mm次の白い小石、砂粒を含む、やや不良	
"	89	R-289	"	壺		6		ナデ、刷毛目、ヘラ調整	淡黄赤褐色、2~4mm次の白い小石、砂粒を含む、やや不良	

出土遺物観察表(2)

検出	番号	実測 番号	出土遺構	種別	口径 (長) (cm)	底径 (幅) (cm)	器高 (厚) (cm)	調整	色調・胎土・焼成	備考
58回	90	R-100	SK-11	壺				ナデ、刷毛目	灰黄褐色、白い砂粒を含む、やや不良	
"	91	R-257	"	壺	27.9			ナデ、刷毛目	灰黄灰褐色、2~3mm大の砂粒を含む、普通	
"	92	R-259	SK-12	壺				刷毛目、ヨコナデ、ナデ	灰黄褐色、2~3mm大の砂粒を含む、やや不良	
"	93	R-467	SK-13	壺	26			ナデ、刷毛目	黄茶褐色、1~2mm大の白色粒子が多い砂粒を含む、不良	
"	94	R-470	"	壺		8.4		刷毛目	灰黄褐色、2~4mm大の石、砂粒を含む、不良	黒斑あり
"	95	R-469	"	壺		8.4			灰黄褐色、2~3mm大の砂粒を多く含む、不良	
"	96	R-256	SK-15	壺	16.8			ナデ、刷毛目、刷毛目	灰黄褐色~灰茶褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	97	R-465	"	壺	19.5			刷毛目、ヨコナデ、ナデ	灰黄黒褐色、黒く光る砂粒を含む、やや不良	スス付着
"	98	R-252	"	壺	23.2			刷毛目	灰褐色、赤色、白色の粒子、砂粒を含む、不良	
"	99	R-254	"	壺		6.3		ナデ、指押さえ痕	灰黄灰褐色、5mm大の白い小石、砂粒を含む、やや不良	
"	100	R-253	"	碗	13.4				灰黄褐色、赤色粒子、砂粒を含む、不良	スス付着
59回	101	R-468	SK-16	壺	25.2			ヨコナデ、刷毛目	灰黄褐色、1~2mm大の砂粒を含む、やや不良	
"	102	R-466	"	壺	29.8			ヨコナデ、刷毛目、指押さえ痕	黄茶褐色、2~5mm大の光る粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	103	R-266	SK-17	壺	25.8			ナデ、刷毛目、ヨコナデ、刷毛目	褐色~黒褐色、赤色粒子、砂粒を含む、不良	
"	104	R-265	SK-20	壺	26			ヨコナデ、刷毛目、ナデ、刷毛目	灰黄茶褐色、白色粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	105	R-264	"	壺	20.6			ヨコナデ、刷毛目	灰黄褐色、黒く光る粒子、砂粒を含む、不良	
"	106	R-260	"	壺	28			ヨコナデ、刷毛目	灰黄灰褐色、砂粒を含む、普通	
"	107	R-261	"	壺		6.4			灰黄灰褐色~黄褐色、白色粒子が多い砂粒を含む、不良	
"	108	R-476	SK-22	壺	29.8			刷毛目後ヨコナデ、刷毛目後ナデ、圧痕	暗褐色、1~2mm大の砂粒を含む、やや不良	黒斑あり
"	109	R-477	"	壺	27.2			ナデ、指さえ痕、刷毛目後ナデ、刷毛目	灰黄茶褐色、2~3mm大の砂粒を含む、不良	
"	110	R-472	"	壺		9		ナデ	灰褐色、2~3mm大の砂粒を含む、不良	黒斑あり
"	111	R-473	"	壺		6		刷毛目	灰黄暗褐色、1~2mm大の砂粒を多く含む、不良	
"	112	R-471	"	壺		7.2		刷毛目	灰黄茶褐色、2~3mm大の粒子が多い砂粒を含む、やや不良	
"	113	R-268	SK-23	壺	24.2			ヨコナデ、刷毛目、指押さえ痕	黄茶褐色、2~3mm大の砂粒を含む、やや不良	
"	114	R-270	SK-24	壺	29.6			刷毛目	灰黄灰褐色、白く光る粒子、5~6mm大の小石、砂粒を含む、不良	
60回	115	R-482	SK-25	壺	22.6			刷毛目、ナデ、ヨコナデ	灰褐色、砂粒を含む、やや不良	スス付着
"	116	R-479	"	壺	22.3			刷毛目、ナデ、ヘラ調整、圧痕	黄茶暗褐色、5~6mm大の白い小石、砂粒を含む、やや不良	
"	117	R-480	"	壺	21.2			ヨコナデ、刷毛目	灰褐色、2mm大の砂粒を含む、やや不良	丹塗り
"	118	R-486	"	壺		8.2		ヘラ調整、押さえ痕、ナデ	灰褐色、1~2mm大の砂粒を含む、やや不良	
"	119	R-484	"	壺		7.4		ヘラ調整、圧痕、指押さえ痕	灰褐色、1cm大の小石、砂粒を含む、普通	黒斑あり
"	120	R-278	SK-27	壺	9.6	5.6		ヨコナデ、ヘラ調整、ナデ	灰黄褐色、白色粒子、砂粒を含む、不良	
"	121	R-483	SK-28	壺	16			刷毛目、圧痕、ヨコナデ、押さえ痕、ヘラ調整	灰黄灰褐色、赤色粒子、砂粒を含む、普通	
"	122	R-488	"	壺		6.4		ナデ	暗灰褐色、白く1mm大の砂粒を含む、不良	
"	123	R-485	"	壺		7.8		ナデ、指押さえ痕	灰褐色、黒色粒子、砂粒を含む、不良	
"	124	R-487	SK-29	壺		7.8		ナデ	暗褐色、白色の2~3mm大の小石、砂粒を含む、不良	
"	125	R-783	SK-30	壺		7.9		刷毛目、ナデ	褐色、砂粒を含む、不良	黒斑、スス付着
"	126	R-782	"	壺		8.2		ヘラ調整、ナデ	黒黄茶褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	127	R-279	SK-31	壺	24			ヨコナデ、刷毛目、ナデ	灰黄黒褐色、3mm大の砂粒を含む、やや不良	
"	128	R-280	"	壺	23.4			刷毛目、ナデ	黄灰黄褐色、3mm大の砂粒を含む、やや不良	
"	129	R-283	"	鉢	19.4			刷毛目、ナデ	灰黄黒茶褐色、光る粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	130	R-286	"	壺	23.5			刷毛目、ナデ	灰黄黒褐色、3mm大の小石、砂粒を含む、やや不良	
"	131	R-273	"	壺	13.6			ナデ、ヨコナデ、ヘラ調整	灰黄褐色~灰黄茶褐色、2mm大の砂粒を含む、普通	
"	132	R-274	"	壺	13.7			ヨコナデ、ヘラ調整、ナデ、指押さえ痕	灰黄灰褐色、黒色、白色粒子、砂粒を含む、普通	
"	133	R-272	"	鉢	17.4			刷毛目、圧痕、刷毛目、ナデ	黄褐色、白色粒子、光る黒色粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	134	R-277	"	壺		9.4		ナデ、指押さえ痕	黄褐色、白色粒子、砂粒を含む、やや不良	

出土遺物観察表（3）

押図	番号	実測 番号	出土遺構	種別	口径 (長) (cm)	底径 (幅) (cm)	器高 (厚) (cm)	調整	色調・胎土・焼成	備考
60図	135	R-287	SK-31	壺		6		ナデ	黒褐色、赤色・白色粒子、砂粒を含む、不良	
61図	136	R-772	SK-32	壺		7.1		沈線	暗褐色、砂粒を含む、やや不良	黒斑、スス付着
"	137	R-773	"	壺	22.6			ナデ	乳褐色、砂粒を含む、やや不良	スス付着
"	138	R-778	SK-34	壺	18.2			刷毛目、ナデ、刷毛目	暗褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	139	R-775	"	壺		7		ナデ	暗褐色、5mm大の砂粒を含む、やや不良	黒斑
"	140	R-777	"	壺		8		ナデ	灰褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	141	R-780	SK-35	壺		6.9		へう調整、ナデ	黒褐色、赤色粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	142	R-781	"	壺		7.8		ナデ	淡茶褐色、砂粒を含む、不良	スス付着
"	143	R-499	SK-36	鉢	19.3			ヨコナデ	茶褐色、1~2mm大の砂粒を多く含む、不良	
"	144	R-498	"	壺	25.4			ヨコナデ、刷毛目	淡黄褐色、砂粒を含む、不良	
"	145	R-496	"	壺	27.3			ヨコナデ、刷毛目	淡黄褐色、白色粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	146	R-494	"	壺	29.4			ヨコナデ、刷毛目、刷毛目	暗褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	147	R-501	"	壺	11.6			ヨコナデ	淡黄褐色、6mm大の白い小石、砂粒を含む、やや不良	
"	148	R-502	"	器台	7.2			ヨコナデ、刷毛目	淡黄褐色、白色粒子が多い砂粒を含む、やや不良	
"	149	R-503	"	器台		7.2		ナデ	淡黄褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	150	R-491	"	壺		6.3		ナデ	明茶褐色、1~2mm大の砂粒を含む、不良	
"	151	R-492	"	壺		7.7		刷毛目、ナデ	淡黄褐色、2~3mm大の白色粒子、砂粒を含む、普通	
"	152	R-513	SK-37	壺	21.2			刷毛目、ナデ	黒褐色、白色粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	153	R-511	"	壺	20.3			ナデ	淡黄褐色～黒茶褐色、1~2mm大の白色粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	154	R-517	"	壺	24			刷毛目、ナデ	黒褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	155	R-512	"	壺	19			刷毛目、ナデ	暗茶褐色、砂粒を含む、不良	スス付着
"	156	R-504	"	壺		7.9		ナデ、刷毛目	淡黄褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	157	R-509	"	壺		7.5		ナデ、指押さえ	淡黄褐色、砂粒を含む、やや不良	スス付着
62図	158	R-510	SK-37	壺	14.8			へう置き紋様	明茶褐色、赤色粒子、砂粒を含む、不良	
"	159	R-508	"	壺		6.6		ナデ	褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	160	R-518	"	壺	9.2			ナデ	乳褐色、白色粒子、砂粒を含む、やや不良	黒斑あり
"	161	R-543	SK-39	壺	24.4			刷毛目、ヨコナデ、ナデ	黒茶褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	162	R-542	"	壺	20.4			刷毛目、ヨコナデ、ナデ	黒褐色、砂粒を含む、普通	
"	163	R-544	"	壺	23.4			刷毛目、ヨコナデ、ナデ	黒褐色、5mm大の小石、砂粒を含む、やや不良	
"	164	R-545	"	壺	18.4			ヨコナデ、へう置き	黒灰褐色～淡黄茶褐色、砂粒を含む、普通	
"	165	R-520	"	壺		8		ナデ	灰褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	166	R-521	"	壺		8.8		ナデ	淡黄褐色、2~3mm大の小石が多い砂粒を含む、不良	
"	167	R-557	SK-40	壺	25			刷毛目、ナデ、ヨコナデ	灰褐色、2mm大の砂粒を含む、不良	
"	168	R-546	"	壺	31.5			刷毛目、ヨコナデ	褐色、5mm大の砂粒を含む、やや不良	
"	169	R-560	"	壺	30			刷毛目、ヨコナデ、刷毛目	乳褐色、砂粒を含む、不良	
"	170	R-551	"	壺	20.4			ナデ	赤茶褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	171	R-541	"	壺	28.8			ナデ	淡黄茶褐色、4mm大の砂粒を含む、不良	
"	172	R-528	"	壺		6.6		刷毛目、ナデ	淡黄褐色、白色粒子、砂粒を含む、やや不良	
"	173	R-536	"	壺		5.5		刷毛目、ナデ	淡黄褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	174	R-529	"	壺		8.2		刷毛目、ナデ	淡黄褐色～灰褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	175	R-523	"	壺		8		刷毛目、へう調整	褐色～灰褐色、砂粒を含む、やや不良	黒斑あり
"	176	R-535	"	壺		7		刷毛目、ナデ	淡黄褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	177	R-525	"	壺		6.8		へう調整、ナデ	淡黄褐色～黒褐色、砂粒を含む、やや不良	
"	178	R-537	"	壺		4.7		へう調整、ナデ	褐色、4mm大の砂粒を含む、普通	黒斑あり

出土遺物観察表（4）

埴田	番号	実測 番号	出土遺構	種別	口径 (表) (cm)	底径 (幅) (cm)	器高 (厚) (cm)	調整	色調・胎土・焼成	備考
63図	179	R-569	SK-41	壺	16.2			刷み目、ヨコナデ、ナデ	乳褐色。砂粒を含む。やや不良	
"	180	R-561	"	壺	18.2			刷み目、ヨコナデ	黒灰褐色。砂粒を含む。普通	
"	181	R-562	"	壺	28.4			ヨコナデ、ヘラ磨き面、刷 目目	褐色。砂粒を含む。やや不良	
"	182	R-566	"	壺		9.2		磨き。ナデ	乳赤茶褐色。赤色粒。砂粒を含む。 不良	
"	183	R-567	SK-42	壺	23.8			ナデ、刷目目	明褐色。白色・赤色粒。砂粒を含む。 やや不良	
"	184	R-568	"	壺	27.6			ヨコナデ、指押さえ痕、刷 目目	明茶褐色。白色粒。砂粒を含む。 不良	
"	185	R-579	SK-43	壺	20.2			ヨコナデ、ヘラ磨き面、刷 目目	黒茶褐色。砂粒を含む。不良	
"	186	R-580	"	壺	25.4			ヨコナデ、刷目目	灰褐色。5mm次の小石。砂粒を含む。 不良	ス入付着
"	187	R-584	"	壺	12.2			ナデ、ヘラ磨き	淡黄茶褐色。黒く光る砂粒を含む。 やや不良	
"	188	R-574	"	壺		7.9		ナデ	褐色。砂粒を含む。不良	
"	189	R-572	"	壺		6.4		刷目目、ナデ	淡黄茶褐色。白色粒。砂粒を含む。 普通	ス入付着
"	190	R-573	"	壺		8.4		刷目目、ナデ	淡黄褐色。白色粒。砂粒を含む。 やや不良	黒斑あり
"	191	R-578	"	壺		5		刷目目、ナデ	暗灰茶褐色。砂粒を含む。やや不良	
"	192	R-571	"	壺		7			淡黄茶褐色。白色粒が多い砂粒を 含む。不良	
"	193	R-582	SK-44	壺	18.8			刷み目、ナデ	暗灰褐色。白色粒。砂粒を含む。 普通	
"	194	R-583	"	壺	21.8			刷目目、刷み目、指押さえ 痕、ナデ	灰褐色。砂粒を含む。やや不良	ス入付着
"	195	R-585	"	壺	21.2			刷目目、ヨコナデ、刷み目	黒灰褐色。砂粒を含む。やや不良	ス入付着
"	196	R-588	SK-47	壺	8.6			ナデ、ヘラ磨き	淡黄茶褐色。砂粒を含む。普通	
"	197	R-591	"	壺		4.8		れた三重の半円縁、ヨコナ デ	灰茶褐色。砂粒を含む。やや不良	ス入付着
"	198	R-595	"	壺	9.4			ヘラ磨き線、二枚肩で割い た三重の半円縁	赤茶褐色。砂粒を含む。やや不良	
64図	199	R-590	"	壺		8.6		ナデ、指押さえ痕	乳褐色。5mm次の小石。砂粒を含む。 やや不良	
"	200	R-587	"	鉢	19.8			ナデ、ヘラ調整	乳灰褐色。砂粒を含む。やや不良	
"	201	R-586	"	鉢	18.4			ナデ、ヘラ調整	淡黄茶褐色。3mm次の砂粒を含む。 やや不良	
"	202	R-589	"	鉢	26			刷み目、指ナデ、ヘラ調 整、ナデ	褐色。砂粒を含む。やや不良	
"	203	R-592	SK-48	壺	24.4			刷み目、ヨコナデ	黒褐色。砂粒を含む。やや不良	
"	204	R-594	"	壺	29.6			ヨコナデ、押さえ痕	淡黄茶褐色。砂粒を含む。やや不良	
"	205	R-752	"	壺	24			刷目目、ヘラ磨き	淡黄褐色。光る黒い砂粒を含む。や や不良	
"	206	R-599	"	壺	28			ヨコナデ、刷目目、ヘラ磨 き線	褐色。砂粒を含む。やや不良	
"	207	R-764	"	壺	25.8			ナデ、指押さえ痕、刷目 目、洗	茶褐色。砂粒を含む。普通	
"	208	R-753	"	壺	31.6			ヨコナデ、刷目目	暗灰茶褐色。白色粒。砂粒を含む。 やや不良	
"	209	R-758	"	壺		6.9		刷目目	淡黄茶灰褐色。白色粒が多い砂粒 を含む。やや不良	
"	210	R-763	"	壺		7.4		刷目目、ナデ	褐色。白色粒が多い砂粒を含む。 普通	
"	211	R-757	"	壺		6.2		刷目目、ナデ	淡黄茶褐色。砂粒を含む。普通	
"	212	R-755	"	蓋	30			ヘラ調整、ナデ	淡黄茶褐色。砂粒を含む。やや不良	
"	213	R-771	"	器台		7.1		刷目目、ナデ	褐色。砂粒を含む。やや不良	
"	214	R-761	SK-49	壺		8		刷目目、ナデ	淡黄茶褐色。白色粒。砂粒を含む。 やや不良	
"	215	R-760	"	壺		9.4		ナデ	乳灰褐色。3mm次の砂粒を含む。不良	
"	216	R-762	"	壺		6		刷目目、ナデ	淡黄茶灰褐色。白色粒。砂粒を含む。 普通	
"	217	R-853	SK-53	壺	24.2			ヨコナデ、ヘラ調整	淡黄茶褐色。砂粒を含む。やや不良	
65図	218	R-800	"	壺	20			刷み目、ナデ	乳褐色。砂粒を含む。不良	
"	219	R-799	"	壺	28			刷み目、押さえ痕、ナデ	乳黄茶褐色。砂粒を含む。やや不良	
"	220	R-795	"	壺	24			刷み目、ナデ、刷目目	褐色。砂粒を含む。不良	
"	221	R-851	"	蓋	12.1			ナデ	褐色。砂粒を含む。やや不良	
"	222	R-794	"	鉢	16			ナデ	灰褐色。1~2mm次の砂粒を多く含 む。不良	
"	223	R-790	"	壺		6		ハケ調整、ナデ	黒褐色。砂粒を含む。不良	

出土遺物観察表（5）

検出	番号	実測 番号	出土遺構	種別	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整	色調・胎土・焼成	備考
65区	224	R-792	SK-53	壺		9.5		ナデ	灰黄褐色。4mm次の砂粒を含む、やや不良	
	225	R-791		壺		5		へう調整、ナデ	灰黄褐色。5mm次の小石、砂粒を含む、普通	スス付着
	226	R-793	SK-54	壺	22			刷目目、ヨコナデ	褐色。砂粒を含む、やや不良	
	227	R-796		壺	14.2			ヨコナデ	灰黄褐色。砂粒を含む、普通	スス付着
	228	R-784		壺		6.4		ナデ	暗茶褐色。白色粒子が多い砂粒を含む、やや不良	
	229	R-788		壺		7.2		刷毛目、ナデ	灰黄褐色。砂粒を含む、不良	
	230	R-815	SK-55	壺	20.4			刷目目、ヨコナデ、不定方向のナデ	暗黄灰褐色。砂粒を含む、普通	
	231	R-820	SK-57	壺	24.2			刷目目、ヨコナデ	暗黄褐色。小石、砂粒を含む、普通	
	232	R-816		壺	29			刷目目、ヨコナデ、ナデ	灰黄褐色。1~5mm次の小石、砂粒を含む、普通	
	233	R-817		壺		7.1		へう調整	灰黄褐色。砂粒を含む、普通	
	234	R-819		壺		6.6		へう調整、ナデ	暗黄灰褐色。1~5mm次の小石、砂粒を含む、やや不良	
	235	R-821		壺	17.6			ヨコナデ	暗黄褐色。1~4mm次の小石、砂粒を含む、不良	
	236	R-854	SK-58	壺	20.2			ナデ	暗茶乳褐色。砂粒を含む、やや不良	
66区	237	R-855	SK-59	壺	13.2			ヨコナデ、ナデ	褐色。砂粒を含む、普通	
	238	R-858		壺		7.5		ナデ	灰黄褐色。白色粒子が多い砂粒を含む、やや不良	
	239	R-859		壺		8.3		ナデ、へう調整	褐色。砂粒を含む、普通	
	240	R-829	SK-60	壺	26.2			ヨコナデ、ナデ、へう調整	灰黄褐色。小石、砂粒を含む、普通	
	241	R-860		壺	28.8			ヨコナデ、刷毛目、沈様	新黄褐色。赤色粒子、砂粒を含む、不良	
	242	R-825		壺	19.6			ヨコナデ	灰褐色。砂粒を含む、普通	
	243	R-824		壺		7.2		ナデ	灰黄褐色。小石、砂粒を含む、普通	
	244	R-823		壺		7		へう調整、ナデ	暗黄灰褐色。小石が多い砂粒を含む、普通	
	245	R-830		壺		6.8		へう調整、ナデ	灰黄褐色。5mm次の小石、砂粒を含む、普通	
	246	R-49	SD-01	壺	23.8			ヨコナデ、刷目目、ナデ	暗黄褐色。1~4mm次の小石、砂粒を含む、普通	上層
	247	R-190		壺	21.8			ヨコナデ、刷目目、ナデ	暗黄褐色。1~4mm次の小石、砂粒を含む、普通	下層
	248	R-322		壺	14			ヨコナデ、刷目目、ナデ	灰黄褐色。砂粒を含む、普通	下層
	249	R-06		壺	17			刷目目	暗黄褐色。1~6mm次の小石、砂粒を含む、不良	上層
	250	R-50		壺	22			ヨコナデ、刷目目、ナデ	灰黄褐色。砂粒を含む、普通	上層
	251	R-165		壺	21			ヨコナデ、刷目目、ナデ	暗黄褐色。砂粒を含む、普通	上層
	252	R-182		壺	23.8			ヨコナデ、刷目目、ナデ	暗黄褐色。2~3mm次の小石、砂粒を含む、普通	下層
	253	R-301		壺	27.2				黄灰褐色。1~3mm次の小石、砂粒を含む、普通	下層
	254	R-177		壺	20			ヨコナデ、刷目目、ハケ調整	暗黄褐色。砂粒を含む、普通	下層
	255	R-184		壺	22			ヨコナデ、刷目目、ナデ	灰黄褐色。砂粒を含む、普通	下層
67区	256	R-327		壺	23.4			刷目目、横方向の刷毛目、刷毛目後傾、ナデ	暗黄褐色。1~3mm次の小石が多い砂粒を含む、普通	下層
	257	R-189		壺	15.4			刷目目、ヨコナデ	灰黄褐色。1~6mm次の小石、砂粒を含む、普通	下層、黒紐あり
	258	R-39		壺	21.8			ヨコナデ、ナデ	赤黄褐色。砂粒を含む、普通	上層
	259	R-191		壺	15.6			刷目目、ヨコナデ、ナデ調整	灰黄褐色。砂粒を含む、普通	下層
	260	R-312		壺	20			ヨコナデ、指捺痕	灰黄褐色。赤色粒子を含む、やや不良	下層、スス付着
	261	R-30		鉢	23			刷目目、ヨコナデ、ナデ	灰黄褐色。1~5mm次の小石、砂粒を含む、やや不良	上層
	262	R-188		壺	20.6			刷目目、ヨコナデ	暗黄褐色。砂粒を多く含む、普通	下層
	263	R-45		壺	21.6			刷目目、ヨコナデ	暗黄褐色。小石、砂粒を含む、普通	上層
	264	R-25		壺	29			刷目目、ヨコナデ	暗黄灰褐色。1~3mm次の小石、砂粒を含む、やや不良	上層
	265	R-317		壺	20.6			刷目目、ヨコナデ、圧痕	灰黄褐色。2~5mm次の白い小石、砂粒を含む、普通	下層
	266	R-324		壺	26			刷目目、ヨコナデ	灰褐色。砂粒を含む、普通	下層
	267	R-27		壺	24.4			刷目目、ヨコナデ	暗黄褐色。1~4mm次の小石、砂粒を含む、不良	上層
	268	R-163		壺	24			刷目目、ヨコナデ	黄灰褐色。1~4mm次の赤色粒子、小石、砂粒を含む、普通	

出土遺物観察表（6）

検出	番号	実測 番号	出土遺構	種別	口径 (表) (cm)	底径 (幅) (cm)	器高 (厚) (cm)	調整	色調・胎土・焼成	備考
67図	269	R-183	SD-01	壺	18.2			刻み目、ヨコナデ	暗黄黒褐色。砂粒を含む。普通	上層。黒斑あり
"	270	R-186	"	壺	21			刻み目、ヨコナデ	淡黄褐色。砂粒を含む。普通	上層
68図	271	R-181	"	壺	28			刻み目、ヨコナデ	暗黄黒褐色。1~3mmの小石が多い砂粒を含む。普通	下層。黒斑あり
"	272	R-195	"	壺	31.8			刻み目、ヨコナデ	淡黄灰褐色。赤色粒子。砂粒を含む。	上層
"	273	R-48	"	壺	19.8			刻み目、ヨコナデ	暗黄褐色。白土。砂粒を含む。やや不良	上層
"	274	R-193	"	壺	20.2			刻み目、ヨコナデ	暗黄灰褐色。砂粒を含む。普通	下層
"	275	R-313	"	壺	18.1			刻み目、ヨコナデ	暗黄灰褐色。2~5mmの白い小石。砂粒を含む。普通	上層
"	276	R-44	"	壺	22			刻み目、ヨコナデ	黄褐色。白土。砂粒を含む。普通	上層
"	277	R-443	"	壺	24.2	8.1	28	刻み目、ヨコナデ、ヘラ調整	暗黄赤褐色。1~5mmの小石。砂粒を含む。普通	上層。スス付着
"	278	R-308	"	壺	21			刻み目、ヨコナデ	暗褐色。1~5mmの白い小石。砂粒を含む。普通	上層
"	279	R-196	"	壺	20.1			刻み目、ヨコナデ	暗黄褐色。砂粒を含む。普通	上層
"	280	R-160	"	壺	22.1			刻み目、ヨコナデ、ナデ	暗黄赤褐色。1~3mmの小石。砂粒を含む。普通	上層
"	281	R-200	"	壺	28			刻み目、ヨコナデ	暗黄灰褐色。赤色粒子。砂粒を含む。普通	上層
"	282	R-162	"	壺	25.8			刻み目、ヨコナデ	黄褐色。砂粒を含む。普通	上層
"	283	R-32	"	壺	22			刻み目、ヨコナデ	黄褐色。1~4mmの小石が多い砂粒を含む。不良	上層
69図	284	R-22	"	壺	26			刻み目、ヨコナデ、ナデ、指触痕	暗黄灰褐色。1~3mmの小石。砂粒を含む。やや不良	上層
"	285	R-161	"	壺	22.4			刻み目、ヨコナデ、ナデ	暗黄黒灰褐色。砂粒を含む。普通	上層
"	286	R-113	"	壺	18.6			刻み目、ヨコナデ、刷毛目	暗黄褐色。1~4mmの小石。砂粒を含む。普通	上層
"	287	R-310	"	壺	20.2			刻み目、ヨコナデ	暗黄褐色。砂粒を含む。普通	下層
"	288	R-26	"	壺	24			刻み目、ヨコナデ	暗黄褐色。砂粒を含む。普通	上層
"	289	R-16	"	壺	22.2			刻み目、ヨコナデ	暗黄褐色。小石。砂粒を含む。普通	上層
"	290	R-08	"	壺	41.8			刻み目、ヨコナデ、ナデ調整	黄灰褐色。1~3mmの小石。砂粒を含む。普通	上層
"	291	R-36	"	壺	18			ヨコナデ	暗黄褐色。1mmの白土。砂粒を含む。やや不良	上層
"	292	R-319	"	壺	16.2			ヨコナデ、ナデ、指触痕	暗黄灰褐色。砂粒を含む。普通	下層
"	293	R-175	"	壺	20			ヨコナデ、ナデ	暗黄黒灰褐色。2~6mmの小石。砂粒を含む。普通	上層
"	294	R-173	"	壺	18			ヨコナデ	淡黄褐色。赤色粒子。砂粒を含む。普通	上層
"	295	R-171	"	壺	9.8			ヨコナデ、ナデ、沈線	黄灰褐色。砂粒を含む。普通	下層
"	296	R-34	"	壺	16			ヨコナデ	黄灰灰褐色。4mmの小石。砂粒を含む。やや不良	下層
"	297	R-176	"	壺	23.6			ヨコナデ、ナデ、指触痕	淡黄灰褐色。砂粒を含む。普通	上層。黒斑あり
"	298	R-179	"	壺	18.6			ヨコナデ、ナデ	黄灰褐色。砂粒を含む。普通	上層
"	299	R-318	"	壺	19.2			ヨコナデ、ナデ、指触痕	黄灰褐色。赤色粒子。砂粒を含む。普通	下層
"	300	R-325	"	壺	20			ヨコナデ、磨き	暗褐色。赤色粒子。砂粒を含む。普通	下層
"	301	R-320	"	壺	18.8			ヨコナデ、磨き	暗黄赤褐色。赤色粒子。砂粒を含む。	下層
70図	302	R-618	"	壺	17.8			ヨコナデ、刻み目	暗黄赤褐色。砂粒を含む。やや不良	下層
"	303	R-199	"	壺			6.5		黄灰褐色。赤色粒子。砂粒を含む。普通	下層。黒斑あり
"	304	R-180	"	壺	15.8			ヨコナデ	淡黄灰褐色。砂粒を含む。普通	上層
"	305	R-302	"	壺	12.3			ヨコナデ、ナデ、沈線	黄褐色。赤色粒子。砂粒を含む。普通	下層
"	306	R-111	"	壺	12.2			ヨコナデ、沈線	淡黄黒褐色。砂粒を含む。普通	上層
"	307	R-323	"	壺	15.8			ヨコナデ	暗黄黒褐色。砂粒を含む。普通	上層
"	308	R-328	"	壺	16.2			ヨコナデ、刻み目、ナデ	暗黄褐色。砂粒を含む。普通	下層
"	309	R-142	"	壺		6.1		ナデ調整	暗黄赤褐色。1~4mmの小石。砂粒を含む。普通	上層
"	310	R-104	"	壺		7.6		ヘラ磨き、ヘラ調整	暗黄褐色。1~5mmの小石が多い砂粒を含む。普通	上層
"	311	R-103	"	壺		7.9		ヘラ磨き	暗黄赤褐色~黒褐色。1~1mmの小石が多い砂粒を含む。普通	上層
"	312	R-606	"	壺		7.4		ヘラ調整	黄灰赤褐色。1~3mmの小石。砂粒を含む。普通	下層。黒斑あり
"	313	R-143	"	壺		7.6		ナデ調整、指触痕	暗黄赤褐色。砂粒を多く含む。普通	上層

出土遺物観察表（7）

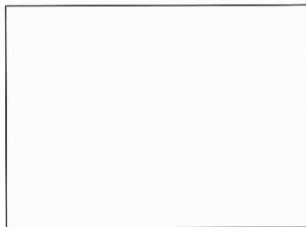
母図	番号	実測 番号	出土遺構	種別	口径 (長) (cm)	底径 (幅) (cm)	器高 (厚) (cm)	調整	色調・胎土・焼成	備考
70図	314	R-150	SD-01	壺		7.5		ナデ調整、ナデ	黄赤茶灰褐色、1~6mm大の白い小石、砂粒を含む、普通	上層
"	315	R-617	"	壺		14.2		ヘラ調整	黄褐色、小石を含む、普通	上層
"	316	R-155	"	壺		7.2		ナデ調整、ナデ	暗黄褐色、砂粒を含む、普通	下層
"	317	R-154	"	壺		7		ナデ調整、ナデ	暗黄黒褐色、1~5mm大の小石、砂粒を含む、普通	下層
"	318	R-146	"	壺		8		ナデ調整、ナデ	黄赤褐色、3mm大の小石が多い砂粒を含む、普通	上層
"	319	R-613	"	小鉢		6		ヘラナデ	淡黄灰褐色、小石、砂粒を含む、普通	下層
"	320	R-330	"	壺		7.8		ナデ、ナデ調整	暗黄褐色、1~6mm大の白い小石、赤色粒子、砂粒を含む、普通	下層
"	321	R-156	"	壺		7.1		ハケ調整、ナデ	暗黄灰褐色、1~6mm大の小石、砂粒を含む、普通	上層、スス付着
"	322	R-149	"	壺		7.1		ナデ調整、ナデ、指頭痕	赤茶褐色、1~5mm大の小石が多い砂粒を含む、普通	上層
"	323	R-106	"	壺		9.5		刷毛目、ナデ	淡黄灰褐色、2~5mm大の小石、砂粒を含む、普通	上層
71図	324	R-24	"	壺		7.1		ナデ調整、ヨコナデ、ナデ、指頭痕	暗黄灰褐色、1~5mm大の小石、砂粒を含む、普通	上層
"	325	R-105	"	壺		8		ヘラ磨き、ナデ調整	淡黄褐色、1~10mm大の小石、砂粒を含む、普通	上層
"	326	R-152	"	壺		10		ヘラ調整、ナデ、ナデ調整	暗黄灰褐色、砂粒を含む、普通	上層
"	327	R-101	"	壺		11.9		ナデ調整、指頭痕	淡黄褐色、赤色粒子、砂粒を含む、普通	上層
"	328	R-23	"	壺		6.5		ナデ調整、ナデ	黄灰褐色、砂粒を含む、普通	上層、黒斑あり
"	329	R-605	"	壺		8.4		ナデ、ヨコナデ、ナデ調整	暗黄灰褐色、1~5mm大の小石、砂粒を含む、やや不貞	下層、スス付着
"	330	R-151	"	壺		13.5		ナデ調整、指頭痕	黄赤灰褐色、1~6mm大の小石が多い砂粒を含む、普通	上層
"	331	R-157	"	壺		9.3		磨き、ナデ調整	淡黄黒褐色、砂粒を含む、やや不貞	下層
"	332	R-609	"	壺		8.1		ヘラ磨き、ナデ	暗黄褐色、1~3mm大の小石、砂粒を含む、普通	下層、黒斑あり
"	333	R-610	"	壺		7			暗黄褐色、1~6mm大の小石が多い砂粒を含む、不貞	下層
"	334	R-102	"	壺		8.9		ハケ調整、指頭痕	淡黄褐色、1~4mm大の小石が多い砂粒を含む、普通	上層
"	335	R-148	"	壺		6.2		ヘラ調整、ナデ	黄赤褐色、1~3mm大の小石、赤色粒子、砂粒を含む、普通	下層
"	336	R-144	"	壺		9		ナデ調整	暗黄灰褐色、砂粒を含む、普通	上層
"	337	R-153	"	壺		7		ナデ調整、指頭痕	黄灰褐色、1~5mm大の小石、砂粒を含む、普通	上層
"	338	R-119	"	壺		8.1		ナデ調整、指頭痕	黄灰褐色、赤色粒子が多い砂粒を含む、普通	上層
"	339	R-168	"	壺		7		ハケ調整、ナデ	黄赤黒褐色、砂粒を含む、普通	上層
"	340	R-178	"	鉢	34				黄灰褐色、砂粒を多く含む、普通	上層
"	341	R-172	"	鉢	11			ナデ調整	黄灰褐色、1~6mm大の小石、赤色粒子、砂粒を含む、普通	上層
"	342	R-197	"	ミニチュア		3.6		ナデ	淡黄褐色~黄赤褐色、砂粒を含む、普通	下層
"	343	R-198	"	ミニチュア		3		ナデ	淡黄褐色~黄褐色、1~5mm大の白い小石、砂粒を含む、普通	下層

出土遺物観察表（8）

PLATES

凡例

出土遺物に関する PL の記載は、以下の要領となっている。



遺構名

掲載番号



(1) 調査前風景 (東より)



(2) 調査前風景 (南西より)



(3) SB-01・02 (南より)



(4) SB-03 (南西より)



(5) SB-04 (南東より)



(6) SB-06 (南より)



(1) SB-07・08・SD-01 (北西より)



(2) SB-08・09 (南西より)



(3) SB-09 遺物出土状況



(4) SD-01・SK-08土層断面



(5) SD-01 VI土層断面



(6) SD-01 掘削風景

PL 3



(1) SK-12・13・14 (南より)



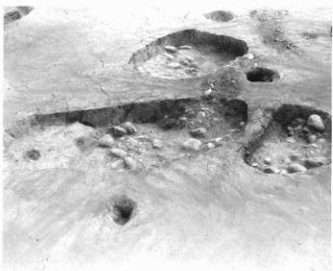
(2) SK-20・21 (北東より)



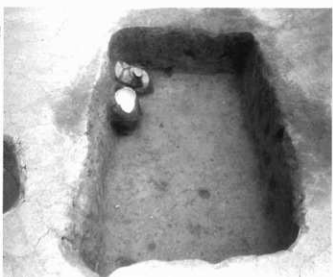
(3) SK-22周辺 (南東より)



(4) SK-24 (南西より)



(5) SK-25・26・27 (南西より)



(6) SK-32 (南西より)



(1) SK-32 遺物出土状況



(2) SK-35 (北西より)



(3) SK-36・37 (西より)



(4) SK-43・44 (北西より)



(5) SK-45 (南西より)



(6) SK-48 (南西より)



SB-01

1



SB-02

8



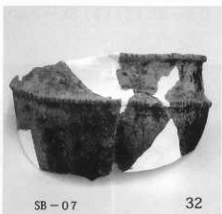
SB-03

10



SB-07

22



SB-07

32



SB-07

34



SB-07

49



SB-07

53・54



SB-07

55



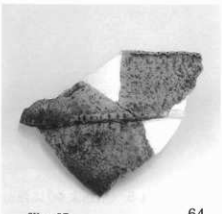
SB-09

59



SB-09

60



SK-07

64



SK - 07

66



SK - 08

80



SK - 08

81



SK - 15

96



SK - 16

102



SK - 20

104



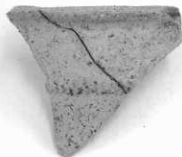
SK - 20

106



SK - 23

113



SK - 24

114



SK - 25

116



SK - 25

117



SK - 31

127



SK-31

130



SK-32

136



SK-36

145



SK-37

153



SK-37

158



SK-37

160



SK-39

161



SK-39

164



SK-40

167



SK-40

169



SK-41

181



SK-43

185





SD-01

290



SD-01

291



SD-01

292



SD-01

297



SD-01

302



SD-01

312



SD-01

315



SD-01

317



SD-01

328



SD-01

331



SD-01

339



SD-01



342 · 343

報 告 書 抄 錄

[illegible]

八女市内遺跡群 7

八女市文化財調査報告書 第111集

平成28年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町 647

印刷 橋爪印刷
八女市吉田 1899-1